

安息日聖書教科

A man with a beard, wearing a brown robe, is seated at a desk in a room with arched windows. He is writing on a scroll with a quill pen. A small lamp with a flame provides light on the desk. To the left, there is a wooden vase containing quills. The scene is illuminated by warm, golden light from the windows, creating a peaceful and scholarly atmosphere.

ヤコブの手紙
における研究

Vol. 100 No.4

2024年10月-12月

目次

| | |
|----------------------|----|
| 1. ヤコブを通しての神のメッセージ | 5 |
| 2. 対処するための知恵 | 10 |
| 3. 誘惑に直面する | 15 |
| 4. 信仰を実践する | 20 |
| 5. 偏見を克服する | 26 |
| 6. 行動における信仰 | 31 |
| 7. わたしたちの口を開く前に祈る | 36 |
| 8. 何について考えるかを選択する | 41 |
| 9. 知恵の柔和 | 46 |
| 10. わたしたちの態度の問題を克服する | 52 |
| 11. より謙遜な見解を採用する | 57 |
| 12. 天に焦点をあてる | 62 |
| 13. 信仰によって耐える | 67 |

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科
Vol.100, No.4

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Sermonview on the
front cover; Map Resources
on pp. 4, 46, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

ヤコブの手紙は率直です。わたしたちはこの中にあるメッセージをどれほど大いに、そしてただちに必要としていることでしょうか！ですから、次の3か月間で世界の安息日学校の生徒たちはヤコブの手紙における研究を深掘りしていきます。舌の（善もしくは悪に対する）感化力で命にかかわる点、信仰による神への従順、祈りの力、エリヤの模範は、カギとなる主題のほんの一部です。なぜこれらはみな今日非常に関連があるのでしょうか。

「この時代の罪は、神の表明された戒めを無視することである。悪い方向への感化力は、非常に大きい。」（教会への証 3 巻 483）

「神の要求を一つでも故意に犯していながら、清くなれると信じて、自分を欺いてはならない。罪と知りながらそれを犯すことは、聖霊のあかしの声を沈黙させ、魂を神から引き離すものである。『罪は不法である。』そして『すべて罪を犯す者〔律法を犯す者〕は、彼を見たこともなく、知ったこともない者である』（ヨハネ第一 3:16）」（各時代の斗争闘下巻 201）

「今日、断固とした譴責の声が必要である。なぜならば、悲しむべき罪が、人々を神から引き離したからである。不信が急速に広く行きわたっている。幾千という人々は、『この人が王になるのをわれわれは望んでいない』というのである。（19:14）。よく聞く耳ざわりのよい説教は、心に永続的印象を与えない。ラツパは音をはっきり出さない。人々は、神の言葉の明白で鋭い真理によって、心が切り裂かれない。

もしその本心を表現するならば、そのように明白に語る必要があるだろうか、という自称キリスト者たちが多くいる。彼らは、また、バプテスマのヨハネがパリサイ人に、『まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから、のがれられると、おまえたちにだれが教えたのか』と言う必要があったのだろうかとたずねる（ルカ 3:7）。また、ヨハネは、なぜヘロデに、兄弟の妻と共に住むことは正しくないと言って、ヘロデヤの怒りを招く必要があったのだろうか。キリストの先駆者は、はっきり物を言ったために、その生命を失ったのである。彼は、罪のうちに生活している人々の怒りを引き起こさないうで、通りすぐすことはできなかったのであろうか、と彼らはたずねるであらう。

このように、神の律法の忠実な擁護者として立つべき者が論じ合い、ついに、忠実さのかわりに方策が取りいれられて、罪が譴責されずにまかり通っている。教会の中に、忠実な譴責の声がもう一度聞かれるのは、いったい、いつのことであらうか。」（国と指導者上巻 109, 110）

「アダムのすべての息子娘が、個々に神のみ旨の知識を得て、クリスチャン品性を完成し、真理を通して精練されるために豊かな備えがなされてきた。」（教会への証 2 巻 644）

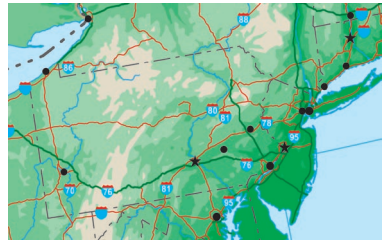
わたしたちは本当に神様の助けを必要としており、また、「信仰のうちに何かを求める熱心な祈りがささげられるなら、答えがもたらされる。それらはわたしたちが期待した通りではないかもしれないが、答えは与えられる。おそらくはわたしたちが考案した通りではないかもしれないが、それらをもっとも必要としているときにもたらされるのである」（同上 3 巻 209）。アーメン！

世界総会安息日学校

第一安息日献金 アメリカ合衆国ペンシルバニア、レディングの礼拝堂のために

米国東部地域 (EUSF) は、ペンシルバニア州、ニューヨーク州、コネチカット州、ロードアイランド州、マサチューセッツ州、メイン州、バーモント州、ニューハンプシャー州の 8 つの地理的地域に分かれています。ペンシルバニア州での活動は現在、急速な成長を遂げています。

この州の住民の 53% 以上が宗教的であると推定されています。メソジスト派、ルーテル派、バプテスト派、ペンテコステ派などが含まれ、カトリック教徒は 28.3% です。植民地時代初期、ペンシルバニア州はヨーロッパでの迫害から逃れるために宗教の自由を求める巡礼者たちの避難場所でした。この歴史は、ランカスター郡全体の大規模な農村に住み、質素な服を着て馬車で移動する、伝統的なアーミッシュの信者が多数いることから明らかです。



長年にわたり、数人の SDARM メンバーがペンシルバニア州に住み、宣教師の訓練もここで行われました。しかし、現在の真理への関心のリバイバルは、2016 年にニューヨークから 2 人の会員がレディング市に引っ越してきた後に始まりました。グループは拡大し、毎週安息日の午後には集まり、夏は公園に、冬は姉妹の家に集まりました。数か月の研究の後、多くの人が改革運動の信仰のためにバプテスマを受けました。

レディングの人口は 95,000 人を超え、電子部品、医療機器、エネルギー貯蔵技術などの製造の中心地です。ここの私たちの教会は現在、米国東部地域で最大の教会です。より多くの新しい魂が神の民に加わる準備ができています。現在、私たちは借りた施設で礼拝を行っていますが、私たちの存在を確立し、より広い宣教活動のために拡大したいと考えています。「どこであっても信徒たちの群れが立ち上げられたら、礼拝の家が建てられるべきである。…メッセージが宣布され、魂がそれを受け入れてきた多くの場所で、彼らは限られた環境にあって、働きに特徴を与えるような利点を得るためにはほとんど何もできていない。しばしばこのために働きが拡張するのが難しくなっている。」(伝道 376)。

そういうわけで、わたしたちは世界中の兄弟や共鳴者たちに、レディング地方に礼拝の家を開発するため助けて下さるようお願いいたします。こうしてもっと多くの魂を囲いに導き入れられることができるためです。みなさんの惜しみない献金に大いに感謝いたします。どうぞ、主が皆さんを祝福してくださいように。

東部アメリカ合衆国フィールドの皆さんの兄弟より

ヤコブを通しての神のメッセージ

暗唱聖句:「神と主イエス・キリストとの僕ヤコブから、離散している十二部族の人々へ、あいさつをおくる。」(ヤコブの手紙 1:1)

「あらゆる習慣や思想において完全な人間、完全な国家はない。人は他の人から学ばなければならない。であるから神はさまざまな国民が混ざり合い、判断において一つとなり、目的において一つとなることを望んでおられる。その時、キリストにある一致が実証されるであろう。」(教会への証 9巻 180, 181)

推奨文献: 教会への証 9巻 190-203

日曜日

9月29日

1. キリストの弟子

- a. キリストと共にいた「ヤコブ」という名前の三人の人はだれでしたか、そしてわたしたちは大抵、だれに注目していますか(マタイによる福音書 10:2, 3; 13:55)。
- b. ヨハネの兄弟ヤコブが経験したイエスとの特別な時を挙げなさい(ルカによる福音書 8:51-55; マタイによる福音書 17:1, 2; マルコによる福音書 14:32-34)。

「ゼバダイの子ヨハネは、イエスに従った最初の二人の弟子の中の一人であった。彼とその兄弟ヤコブは、キリストの奉仕にすべてを捨てた最初の人たちのグループにはいっていた。彼らはキリストといっしょにいるために家も友だちもよろこんで捨てた。彼らはイエスとともに歩み、ともに語った。彼らは家にひっこんでいる時も、公の集りの中にいる時も、イエスといっしょだった。イエスは、彼らの恐れを静め、彼らを危険から救い、彼らの苦しみをやわらげ、彼らの悲しみを慰め、忍耐とやさしさをもって彼らをお教えになったので、ついに彼らの心はイエスの心に結ばれ、イエスを愛するあまり、み国においてイエスに一番近いところにいたいとあこがれるようになった。」(各時代の希望中巻 364)

「園の入口の近くで、イエスは三人の弟子たちのほかは全部残して、彼らに、あなたがた自身のために、またわたしのために祈るようにとお命じになった。主はペテロ、ヤコブ、ヨハネといっしょに、人目につかない奥まった場所へはいつて行かれた。この三人の弟子たちは、キリストの一番親密な友であった。…いまキリストは非常な苦しみのうちにあって、この三人がそばにいたいことをお望みになった。このかくれた場所で、彼らはたびたびイエスと夜を明かしたのだった。」(同上下巻 174-176)

2. 杯を飲む

- a. ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネと共にもととの目的を述べなさい (マルコによる福音書 10:35-38)。

「機会のあるたびに、ヨハネは救い主の隣に席を占め、ヤコブはできるだけイエスに一番近いところにいたいとあこがれた。

彼らの母親は、キリストに従う者であって、その財産を惜しまずささげてイエスに仕えた。息子たちに対する母親の愛情と野心から、彼女は息子たちのために新しいみ国の最高の地位をほしがった。彼女は息子たちにこのことをイエスにお願いするように奨励した。

母親と息子たちは、いっしょにイエスのところへやってきて、彼らの心にかかっている願いをかなえてくださるようにたのんだ。

『何をしてほしいのか』とイエスはおたずねになった (マタイ 20:21)。

母親は、『わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはあなたの右に、ひとりは左にすわれるように、お言葉をください』と答えた (マタイ 20:21)。

イエスは、兄弟たちよりも有利な立場を占めたいという彼らの利己心を責めないで、彼らのことをやさしく忍耐される。イエスは彼らの心を読まれ、彼らが深く主を慕っていることをお知りになる。彼らの愛はただの人間的な愛ではない。それは、人間の世俗的な水路によってよごれてはいるが、主ご自身のあがないの愛という泉から湧きあふれたものである。主は責めないで、それを深くし、純潔にされる。イエスは、『あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか』と言われた。彼らは、さばぎと苦難をさし示しているキリストのふしぎなことばを思い浮べたが、それでも確信をもって、『できます』と答える (マルコ 10:38, 39)。彼らは、主に起ろうとしているすべてのことをわかち合うことによって、自分たちの忠誠心を証明することができれば、最高の名誉であると考えて。

『あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けよう』とイエスは言われた、(マルコ 10:39)。キリストの前には、王座ではなく、十字架があった。その右と左には、二人の犯罪者が道連れとなるのであった。(各時代の希望中巻 364-367)

- b. まさにキリストが予告されたとおり、主の昇天の後、ヤコブとその兄弟ヨハネに何が起こりましたか (使徒行伝 12:1, 2; ヨハネの黙示録 1:9)。

「ヨハネとヤコブは、主の苦難をわかち合うのであった。ヤコブは兄弟たちのうちで最初に剣に倒れ、ヨハネは兄弟たちのうちで最後まで生き残って苦勞と非難と迫害に耐えるのであった。」(同上 367)

3. だれが手紙を書いたか？

- a. 靈感は、12人のうちの1人であるアルパヨの子ヤコブ（ゼベダイの子でヨハネの兄弟ではない）をどのように描写していますか（マルコによる福音書 15:40）。

「弟子たちの中には、それまで税吏として社会的に活動し、ローマへの屈従の生活をしていた中から召し出されたレビ人マタイ、ローマ帝国の権威に抗して屈しない熱心党のシモン、情に激しやすく自尊心が強く、しかも暖かい心をもったペテロ、その兄弟アンデレ、教養と才能をもちながら、半面には卑劣な心の持ち主であったイスカリオテのユダ、忠実で熱心でありながら、信ずる心のおそいピリポとトマス、同信の兄弟たちの中ではあまり目立った存在ではなかったが、その欠点も美德もはっきりしていた力の人アルパヨの子ヤコブとタダイ、子供のような純真さと信頼心をもったナタナエル、大きな望みと愛情の心をもったゼベダイの子たち、といったような人々がいた。」（教育 88）

- b. ヤコブの手紙の著者（彼は主を直接知っていたので使徒と呼ばれていた）がキリストの異母兄弟である可能性が高いのはなぜですか、彼自身についての説明は、彼の品性が主の影響によって変えられたことをどのように示していますか（ヤコブ 1:1(上句前半)）。

「キリストはご自分の兄弟たちに誤解された。なぜならこのお方は彼らのようではなかったからである。このお方はご自分をご覧になった苦しみのすべての状況を取り除くために働かれ、いつも成功なされた。このお方は与えるためのお金は少ししかなかったが、しばしばご自分のわずかな食物をご自分よりも生活に困っていると思われた者たちにお与えになった。キリストの兄弟たちはこのお方の影響が自分たちの影響をはるかにしのいでそれらを無にしていると感じた。なぜなら彼らが貧しい者たちに荒々しく語り、彼らが接触した魂をみじめにさせたとき、キリストはこれらの者たちを捜し求められ、彼らに励ましの言葉を語られたからである。もし家族の輪においてこのお方がもはや何もおできにならないときがあれば、このお方はできるだけ静かに、そして秘かにご自分が助けようとされていた哀れな者たちに、冷たい水一杯をお与えになり、そしてご自分の食事を彼らの手に置かれるのであった。」（この日を神と共に 59）

- c. パウロはイエスの兄弟ヤコブに対する敬意をどのように表しましたか（ガラテヤ人への手紙 1:17-19; 使徒行伝 21:18）。

4. いくつかの問題を明確にする

- a. キリストの兄弟ヤコブが初代教会の重要な会議で影響力のある人物であったことを何が明らかにしていますか (使徒行伝 15:5, 6, 13, 19, 20)。

「この場合ヤコブは、会議によって到達した決定を発表する者として選ばれていたようである。ヤコブは礼典律、特に割礼の儀式を異邦人に強制したり、勧めたりすべきでないと言明した。ヤコブは、異邦人が神に献身するにあたって、彼らの生活には既に大きな変化があったこと、また彼らがキリストに従うにあたって失望させられないように、あまり重要でない問題で困惑させたり、疑わせたりして彼らを悩ませないよう十分注意を払わねばならないことを、兄弟たちに理解させようとした。(患難から栄光へ上巻 210)

- b. この重要な会議でヤコブが重要な役割を果たしたことは、一般的に信じられているが誤っているとの主張に反論していますか (マタイによる福音書 16:18)。

「ヤコブは会議において議長をつとめていたが、彼の最終的決定は『そこで、わたしの意見では、異邦人の中から神に帰依している人たちに、わずらいをかけてはいけない』ということであった。

これで話し合いは終わった。この例を見れば、ローマ・カトリック教会が教えるようにペテロが教会の頭ではなかったことがわかる。法王のように、ペテロの継承者だと主張してきた人々には、その主張に対する聖書的な根拠がない。ペテロの生涯において、彼が神の代理者として兄弟たちの上位にあがめられたという主張を是認するようなものは、何もない。ペテロの継承者だと宣言している人々が彼の模範に従っていたならば、彼らは常に兄弟たちと同等の立場にとどまることで満足していたはずである。」(同上 209, 210)

「救い主は、福音の働きを個人的にペテロにおまかせになったのではなかった。のちになって、キリストは、ペテロに言われたことをくり返して、それを直接教会に適用された。また実質的に同じことが、信者の団体を代表する十二人に語られた。もしイエスが何か特別な権威を特に一人の弟子におさずけになったのだったら、弟子たちの中でだれが一番えらいかということについてしばしば論争されるようなことはなかったであろう。彼らは主のご希望に服従して、主がえらばれた一人を尊敬したであろう。」(各時代の希望中巻 182)

5. イスラエルの神

- a. この手紙はだれにあてて書かれたものですか、またこの手紙にはイエスを主として受け入れるすべての人がどのように含まれていますか（ヤコブの手紙 1:1（下句）；ガラテヤ人への手紙 3:27-29）。

「神のイスラエルの中には、肉によるアブラハムの子孫ではない多くの人々が数えられる。（国と指導者上巻 335）

「キリストの生涯は、身分制度のない宗教、すなわちユダヤ人もギリシャ人も、自由人も奴隷も一つの共通した兄弟関係、神のみ前に等しい関係の中につながる宗教を確立した。」（教会への証 9 巻 191）

「キリスト教は、主人と奴隷、王と臣民、福音を説く牧師とキリストの中に罪からのきよめを見いだしている墮落した罪びととの間に、強い一致のきずなをつくる。」（患難から栄光へ下巻 152）

- b. 預言の中に、最後の霊的イスラエルにどのような名前が与えられていますか、またキリスト再臨の直前の彼らの経験はどのようなものであると述べられていますか（ヨハネの黙示録 7:4）。

「まもなく、わたしたちは多くの水の音のようなイエスの来臨の日時を告げる神の御声を聞いた。数にして十四万四千の生きている聖徒たちはその声を知って、理解したが、悪人はそれを雷鳴と地震であると思った。…

十四万四千人はみな印せられ、完全に一致していた。彼らの額には神、新エルサレムと書かれ、イエスの新しい名がついた輝く星が書かれていた。悪人たちはわたしたちの幸福な聖い状態を見て激怒し、荒々しく襲いかかってわたしたちを捕らえ、投獄しようとしたが、わたしたちが主の名によって手を伸ばすと、彼らはどうすることもできずに倒れてしまった。サタンに属する人々は、互いの足を洗い、きよい接吻をもって兄弟たちと挨拶を交わすことができるわたしたちを神が愛しておられたことを知って、わたしたちの足元に伏して礼拝した。」（教会への証 1 巻 59）

個人的な復習問題

1. ゼバダイの子ヤコブはどのようにしてもっとキリストに似た者に成長しましたか。
2. イエスの異母兄弟ヤコブはどのようにしてよりもっとキリストに似た者に成長したのでしょうか。
3. ペテロが使徒の頭ではなかったことを聖書の中にどのような証拠が示されていますか。
4. パウロはすべてのクリスチャンの一致と平等な価値をどのように説明していますか。
5. 神の霊的イスラエルの最終的な勝利を何が描写していますか。

対処するための知恵

暗唱聖句：「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙 1:5)

「わたしたちは、知恵を求めて、何も地の果てまで行く必要はない。神は、そば近くにおられる。成功するか否かは、あなたが今持っている能力とか、または、将来の能力によるものではない。それは、主があなたのために何をなし得るかということによる。…神は、あなたが、神に大きなことを期待することを望んでおられるのである。神は、靈的のものと同様に、この世のものに対する理解をも与えようと望んでおられる。神は、知性を鋭敏にすることがおできになる。また、手腕と技巧とを与えることがおできになる。あなたの才能を大いに働かせて、神に知恵を祈り求めなさい。そうすれば、知恵は与えられるであろう。」(キリストの実物教訓 125)

推奨文献： 教会への証 1巻 120, 121 ; 2巻 232-235

日曜日

10月6日

1. 知恵を求めて嘆願する

- a. 人生において人間の知恵以上のものが本当に必要であるのはなぜですか、またどのようにしてそれを得ることができますか(ヤコブの手紙 1:5)。

「わたしたちは、人間のできることには、信頼をおかないで、信じるすべての魂のために、神がおできになることにもっともっと信頼をおかなければならない。神は、あなたが信仰によって、神にたよることを望んでおられる。神は、あなたが、神に大きなことを期待することを望んでおられるのである。」(キリストの実物教訓 125)

聖書の真理を個人的な体験としなければ、安息日ごとに説教をきき、聖書を幾度も通読し、あるいはその一節一節を説明しても、それはわたしたちの益とならないばかりか、きく人にも益とはならない。理解力も意志も愛情も神のみ言葉の支配に服従させなければならぬ。そうするとき、聖霊が働いて、神のみ言葉の教えるところが生活の原則となるのである。

主に助けを願うとき、その祝福を必ず受けると信じて救い主をあがめなさい。そのとき、あらゆる力、知恵はわたしたちの求めに応じて自由に与えられるのである。」(ニストリー・オブ・ヒーリング 499, 500)

2. 信頼によって強められる

- a. 人生の一般的な事柄においてさえ、神の知恵を自分の知恵よりはるかに優れているとみなすなら、わたしたちはどのような恩恵を受けますか（箴言 3:3-8）。

『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず
に惜しみなくすべての人に与える神に願い求めるがよい。そうすれば与えられるであ
ろう』このような約束には金や銀よりも価値がある。もし謙遜な心であらゆる困難
や困惑において神の導きを求めるなら、神のみ言葉には恵み深い答えがあなたに
与えられるであろうと約束されている。そしてこのお方のみ言葉は決して失望させる
ことがないのである。天地は滅びるであろう、しかしこのお方のみ言葉は決して滅
びることがない。主に信頼しなさい、そうすればあなたは決して困惑させられ、恥
じたりすることはない。『主に寄り頼むは人にたよるよりも良い。主に寄り頼むはも
ろもろの君にたよるよりも良い。』

人生においてわたしたちがどのような立場にいたとしても、どのような職業につい
ていたとしても、わたしたちは助けが必要であるということを感じられるほど謙遜で
いなければならない。わたしたちは神のみ言葉の教えに絶対的に頼り、すべてのこ
とにおいて神の摂理を認め、祈りのうちに魂を注ぎだすことにおいて忠実でなけれ
ばならない。親愛なる兄弟方よ、自分自身の理解に頼って世を歩もうとすると、あ
なたは悲しみと失望を刈り取ることになるであろう。心から主に信頼しなさい。そう
すれば主は知恵をもってあなたの歩みを導き、あなたの利益はこの世とまた来るべ
き世において安全なものとなるであろう。あなたは光と知識を必要としている。あな
たは神か自分の心のどちらかの助言を受けるであろう。あなたは自分自身のたいま
つの中を歩むか、あるいは義の太陽からの神聖な光を自分に集めるかになるであ
ろう。」（教会への証 5 巻 427）

- b. なぜわたしたちは他の人々の導きに大きく依存することをやめる必要があるのだ
しょうか（エレミヤ書 17:5-8）。

「めんどろな事が起こり困難に直面した場合、人間に助けを求めてはならない。何
事も神にたよらなければならない。困難なことについて他人に話しても、それは、自
分を弱めこそすれ、それを聞いた人にはなんの力にもならない。わたしたちの霊的弱
さというどうすることもできない重荷を彼らに負わせるだけである。わたしたちは少しも
誤りたもうことのない無限の神の力を受けることができるにもかかわらず、誤りやすい
有限な人間の力にたよろうとしているのである。」（キリストの実物教訓 125）

3. より大きな安定へと発達する

- a. 主がわたしたちの嘆願に答えられる前にわたしたちはどのような条件を満たさなければなりませんか（ヤコブの手紙 1:6（上句）；マルコによる福音書 11:24）。この点に関してわたしたちが強さを発達させようと決断することができる一例を説明しなさい（コリント人への第一の手紙 6:3-5）。

「このみ事業のために重荷を負うわずかな牧師たちに課せられた責任を認識している者はほとんどいない。兄弟たちは自分たちの些細な問題を対処したり、教会の問題を解決するために、頻繁に働きからこれらの兄弟たちを呼び出すが、それは自分たちでなすことができ、またそうすべきなのである。『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人はとがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。』彼は熱心で辛抱強くなければならない。もし彼が優柔不断で、主が確かに約束通りにしてくださるということに絶え間なく疑っているのであれば、彼は何も受けることはないであろう。

多くの人々は神からの光を自分たちにもたらしてくれる牧師たちに期待しており、自分たちでわざわざ神のもとに光を求めに行くよりもそのほうが安価な方法であると考えているようである。そのような者は多くを失う。もし彼らが毎日にキリストに従い、このお方を自分たちの導き手また相談者とするならば、彼らは神の御心をはっきりと知ることができ、貴重な経験を得ることができるであろう。まさにこの経験がかけているために、真理を告白する兄弟たちは他人のたいまつの中を歩くのである。彼らは神の御霊を知らず、神の御心を知らないために、簡単に信仰から離れてしまう。彼らは他人が彼らのために得た経験に信頼しているため、不安定なのである。」（教会への証 2巻 643, 644）

- b. 信仰が揺らぎ始めた自称クリスチャンを何と比較することができますか（ヤコブの手紙 1:6（下句）；創世記 49:4（上句））。わたしたちはこれをどのように避けることができますか。

「もし集会や祈りのために集まることをいつも怠っていると、ほとんどのクリスチャンの信仰は揺らいでくる。」（同上 4巻 106）

「キリストのみことばをあなたの保証としてかたく信じなさい。主はみもとに来たれとお招きになったのではなかったか。決して失望落胆のことばを言うてはならない。さもないと、大きな損失をするであろう。もしあなたが困難や圧迫に遭遇したとき、その表面だけを見て、つぶやいたりすると、あなたの信仰が病的で薄弱なことをあらわしてしまう。あなたの信仰が、あたかも絶対無敵であるかのように語り、行動しなさい。」（キリストの実物教訓 125）

4. 二心を避ける

- a. どのように知恵を求める祈りに、確実に答えていただくことができますか（ルカによる福音書 18:1; ヤコブの手紙 1:6, 7）。

「知恵を求める嘆願は、終わった後すぐに思いから消えてしまうような無意味な祈りであってはならない。これは、神が神のみ旨であるか判断する知恵に不足していることを自覚して生じる強く熱烈な心からの願望を表現する祈りである。祈り終わった後、すぐに答えが実現されなくても、うみつかれたり不安定になったりしてはならない。揺らいではならない。『あなたがたを召された方は真実であられるから、このことをしてくださいであろう』。求め続けたやもめのように自分の目的をしっかりと持ち、あなたの訴えを求めなさい。その目的はあなたにとって重要であり、大きな結果となるものであろうか、確かにそうである。そうであれば、あなたの信仰が試みられても揺らいではならない。もしあなたが望むものに価値があるなら、それは強く熱心な努力に値する。あなたは約束を持っている。見張り、祈りなさい。断固としていなさい、そうすれば祈りは答えられる。約束して下さったのは神ではなかったか。もしそれを得るために犠牲が必要であるなら、それを得た時、あなたはそれをより高く重んじるであろう。もし揺れ動くなら、主から何かをいただけるもののように思うべきではないとあなたははっきりと言われているのである。ここに倦むことなく、約束の上にはっきりととどまるようにという警告が与えられている。もしあなたが求めるなら、このお方は惜しみなく与え、責められることはないのである。

ここで多くの人々が間違いを犯す。彼らは自分たちの目的から揺れ動き、信仰は失敗する。これこそ、彼らがわたしたちの力の源である主から何も受けることができない理由である。だれも暗闇の中を盲人のようによろめきながら進む必要はない。なぜなら彼らが自分の方法を選ばず、主が定められた方法でそれを受け入れるなら、このお方は光を備えて下さったからである。このお方はすべての人に日常の働きを勤勉になすことを要求しておられる。」（教会への証 2 巻 130, 131）

- b. なぜわたしたちは二心を避けなければならないのでしょうか（ヤコブの手紙 1:8; 詩篇 86:11）。

「クリスチャンであると告白しているが、多くの者は世の性質を身につけており、彼らの愛情は神に向けられていない。彼らは二心の者であり、神と富とに同時に仕えようと企てている。…二人の主人に兼ね仕えようとするので、彼らは何事をするにも不安定で頼りない。…

快い事柄を語り、サタンのお働きを遺憾に思いながら、同時にサタンのあらゆる策略を成し遂げることに荷担して、何の益があるものであろうか。これが二心の者なのである。」（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 938）

5. ヤコブを覚えて

- a. イエスはわたしたちが神の御心を実行する力を求めて嘆願をささげべき熱烈さをどのように描写なさいましたか (マタイによる福音書 11:12)。

『天国は激しく襲われている。そして激しく襲う者たちがそれを奪い取っている』。この激しい戦いには全身全霊を要する。二心の者は不安定である。決意と克己、そして聖別された努力が準備の働きに要求される。理解と良心は一致させることができるが、もし意志が働きに注がれていないならば、我々は失敗するであろう。すべての能力と感情が動員されねばならない。熱意と真剣な祈りが無気力と無関心にとって代わらなければならない。ただ真面目な、意を決した努力とキリストの功績に頼る信仰によってのみ、我々は勝利して天の王国を得ることができる。我々が働くための時間は短い。まもなくキリストは再びおいでになる。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 1 巻 1096)

「わたしたちは偉大な真理を受け入れる特権にあずかっているのであるから、わたしたちは生きた光の水路となるべきであるし、また聖霊の力の下にそうなることができる。そのとき、わたしたちは恵みの御座のもとへ行くことができる。そして約束の虹を見ながら、悔いた心でひざまずき、答えを受けずにはいないような霊的な激しさをもって天国を求めることができる。わたしたちはヤコブのように、力をもってそれを奪うのである。そのときわたしたちのメッセージは救いにいたる神の力となる。わたしたちの嘆願は真剣さと自分たちの大いなる必要感に満ちるようになり、決して拒まれないのである。生活と品性によって、また神の祭壇の燃えている炭火にふれられた唇によって、真理が表現されるようになる。

これがわたしたちの経験となるとき、わたしたちはこれまで非常に大事に怠ってきたみじめで安っぽい自己から引き上げられるようになる。心から利己心というむしばむ力が空にされ、神への賛美と感謝で満たされる。わたしたちは主を、すなわちキリストを大いなるものとされた恵みに富まれる神を大いなるものとするのである。そしてこのお方はわたしたちを通してご自分の力をあらわされ、わたしたちを収穫畑の鋭い鎌のようにされる。神はご自分の民にご自分をあらわすように求めておられる。」(キリストを映して 217)

個人的な復習問題

1. 天からより大きな知恵を得るために重要なかぎをいくつか述べなさい。
2. わたしたちが人間の知恵に頼ることに満足していると、何が起るでしょうか。
3. 牧師たちが新しい魂に集中できるよう、彼らを解放するために、わたしはどのように自分の役割を果たすことができますか。
4. 人生のどの分野においてわたしが思っている以上に二心を持っている可能性がありますか。
5. ヤコブの格闘の力と終わりの時代との関連性を説明しなさい。

誘惑に直面する

暗唱聖句：「試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう。」(ヤコブの手紙 1:12)

「あなたの祈りに調和して語り行動しなさい。試練がきたときにあなたの信仰が真実のものであるかを証明するか、それとも、祈りが単なる形式であるかがわかるのでは、格段の違いである。」(キリストの実物教訓 124)

推奨文献： 教会への証 3 巻 477-492

日曜日

10月13日

1. 霊的成長の要因

a. ヤコブ 1:2 がわたしたちの中でどのように成就することができるかその秘訣を述べなさい (ネヘミヤ記 8:10)。

「教育者として受けるすべての試練は、喜びを生じさせる。宗教生活全体が良い言葉や行いによって向上させ、高め、気高くし、香り豊かなものとなるであろう。敵は魂が憂鬱状態で、意気消沈し、嘆き、不平を言うとき喜ぶ。彼はまさにわたしたちの信仰の影響力についてそのような印象を与えたいと望んでいる。しかし神は思いが決して低い水準にならないようにと計画なされた。主はすべての魂が贖い主の守ってくださる力によって勝利することを望んでおられる。」(教会への証 6 巻 365, 366)

b. なぜ神はわたしたちに試練が訪れることをお許しになるのですか (ヤコブの手紙 1:3; ローマ人への手紙 5:3)。

「もしわれわれが試練に打ち勝ち、サタンの誘惑に勝利するならば、われわれは金よりもはるかに尊い信仰の試練に耐え、さらに強くなり、次の試練に当面する準備がよくできる。しかし、もしわれわれが、サタンの誘惑に圧倒されて負けるならば、われわれは弱くなり試練の報賞も受けず、次の誘惑に対する準備もよくできないのである。こうして、われわれは徐々に弱くなり、ついにサタンの思いのままに捕虜にされてしまう。われわれは神の武具をすべて身につけて、いつでも暗黒の勢力と戦う用意がなければならない。」(初代文集 112)

2. 想像していたよりはるかに優れた結果

- a. 忍耐を働かせることの利点を述べなさい（ヤコブの手紙 1:4; ルカによる福音書 21:19）。

「神は賢明、かつ最善なお方で、わたしたちが望むときに、望むように、いつでもこたえるということはないのである。しかしわたしたちの希望が全部かなえられるよりもっとよい方法をとってくださるのである。わたしたちは神の知恵と愛を信頼できるようになるため、わたしたちの願いを認めたまえと祈るのではなく、神のみ心を知り、それを果すように務めなければならない。自分の要求や興味を神のみこころを考える気持で忘れてしまわなければならない。信仰をためすこうした体験は我々を益し、それによって自分の信仰が真実であり、神のみ言葉の上に堅くたった信仰であるか、それとも事情が変れば動揺し、不安定で変りやすいものかどうかが判然するものである。信仰は働かすことによって強くなる。主を待ち望む者のために聖書の中には尊い約束があることを覚え、忍耐を十分に働かせなければならない。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 208, 209）

- b. ヤコブはこの墮落した世における権力と繁栄という一時的な見方ではなく、もっと大いなる事実を、どのようにそしてなぜ示しているのでしょうか（ヤコブの手紙 1:9-11）。

「今日、世の人々は、最後の重大な危機を前にして、ノアの洪水前の人々と同じように、享楽に心を奪われ、肉欲にふけている。彼らは目の前のはかないものに夢中になって、目に見えない永遠のものを見おとしている。使えばなくなるような物のために、彼らは、滅びることのない富を犠牲にしている。彼らの思いは高められ、彼らの人生観は広くされなければならない。世俗の夢をむさぼっている彼らは、その惰眠から目ざめなければならない。

聖書のページに明らかにされている諸国民の興亡を通して、われわれは、単なる外面的で世俗的な栄光がどんなにむなしいものであるかを学ばなければならない。後世にその例を見ないほどの権力と栄華を誇ったバビロン—当時の人々には、堅固で永遠に続くように思われていた権力と栄華をもったバビロンは、跡かたもなく消え失せた。それは、「草花のように」滅びてしまった。根本に神を持っていないものはすべて滅びる。神の御目的と結合し、神のご品性を表わすものだけが永続することができる。神の原則だけが、世に知られるかぎりの唯一の不変なものである。」（教育 216, 217）

「世俗的な宝はつかの間である。キリストを通してのみわたしたちは永遠の宝を得ることができる。」（レビュー・アンド・ヘルト 1901年12月10日）

3. 戦いの激しさの中で

- a. 誘惑に直面した時、わたしたちは祈りの内に何をしなければなりませんか、それはなぜでしょうか (ヤコブの手紙 1:12)。

「見せかけや、気取ることはすべて捨て去りなさい。単純で自然のままの自分で行動しなさい。すべての思想と言葉、行為において誠実でありなさい。『へりくだった心をもって互いに人を自分よりもすぐれた者としなさい』。道徳的性質は絶え間ない注意と祈りによって鼓舞される必要があることを常に覚えていなさい。キリストにあなたの目をとめている限りあなたは安全である。しかしあなたが自分の犠牲や困難を考え始め、自分に同情し、自分を大事にし始めた瞬間、あなたは神への信頼を失い、あなたは大きな危険の中にいるのである。」(教会への証 4 巻 522)

「わたしたちはどんな試練がわたしたちの道に立ちほだかろうとも、どんなに道徳的な闇がわたしたちを取り囲んでいようとも決して落胆したり、良い働きをなすことに希望を失ったりすることなく、着実に前進しなければならない。忍耐、信仰、義務への愛はわたしたちが学ばねばならない教訓である。自己を抑制しイエスを仰ぎ見ることは日毎の働きである。主を信頼し、このお方の助けを求める魂を主は決して見捨てられない。命の冠は勝利者の額の上のみおかれるのである。」(同上 5 巻 70, 71)

- b. 神が試練や誘惑をお送りになると言うのはなぜ間違っているのですか (ヤコブの手紙 1:13)。

「わたしたちは罪の言いわけをして自分の罪を軽くしようとしてはならない。わたしたちは、罪についての神の評価を受け入れなければならない。それは実に重いものである。カルバリーのみが罪のいかにおそるべきものかを明らかにする…

試みとは罪へ誘うことである。これは神から出るものでなく、サタンとわたしたちの心の悪から出るものである。『神は悪の誘惑に陥るようなかたではなく、また自ら進んで人を誘惑することもなさらない』(ヤコブ 1:13)。

サタンは、人々と天使たちの前にわたしたちの品性の欠陥をあらわし、わたしたちを彼のとりこだと主張するために、わたしたちを誘惑に会わせようとするのである。…敵はわたしたちを罪に導き、わたしたちを全天の前に、神の愛に値しない者であると訴える。」(祝福の山 145, 146)

- c. 告発者がわたしたちの汚れた品性を攻撃した時、主はどのようにわたしたちを擁護してくださいますか (ゼカリヤ書 3:1-4; ヨハネの第一の手紙 1:9-2:1)

4. わたしたちの弱さの内にある神の強さ

- a. 主の祈りの中にある「われらを試みにあわせず」という表現を説明しなさい（マタイによる福音書 6:13（上旬）；イザヤ書 30:21）。

「神がわたしたちに障害や迫害や困難のくるのをお許しになるのは、のろいとしてでなく、わたしたちの生涯の最高の祝福としてである。うち勝ったあらゆる試み、勇敢に耐えたすべての試練は、わたしたちに新しい経験を与え、わたしたちの品性建設の働を押し進める。神のみ力によって試みに抵抗した人は、世界と全天にキリストの恵みの力をあらわすのである。

しかし、たとえきびしい試練がきても、それによって恐れてはならないが、それと同時に、自分の心の悪い欲望に引かれて行くことを、神がお許しにならないように祈るべきである。キリストがお与えになった祈りをささげることによって、わたしたちは自己を神の導きにゆだね、神がわたしたちを安全な道にお導きくださるよう求めるのである。この祈りを心からささげながら自分の好き勝手な道を歩こうと決心することはできない。わたしたちは神のみ手が自分を導くのを待つのである。…

サタンのささやきに従うことによって得られる利益をいつまでも考えていることは安全ではない。罪は、それにふけるすべての者に不名誉と災いをもたらす。しかし、その性質は人の目をくらます欺瞞的なものであって、甘言をもって人を誘うのである。もしわたしたちがあえてサタンの領域に踏み込むならば、彼の力から守られるという保証はない。できるかぎりわたしたちは、誘惑者が自分に近づくすべての道を閉ざさなければならない。

「わたしたちを試みに会わせないで」という祈りは、それ自体約束である。」（祝福の山 147, 148）

- b. 神は誘惑に関してわたしたちにどのような訴えと保証を与えておられますか（ヤコブの手紙 1:14-16；コリント人への第一の手紙 10:13）。

「試みとは何か。それは、神の子であると主張している者たちが、テストされ、試される手段である。わたしたちは、神がアブラハムを試みられたというのを読む。また、神がイスラエルの子らを試みられたというのを読む。これは神が、彼らの信仰をテストし、彼らが助けを求めてご自分を眺めるようにと導くような状況が起こることを許されたことを意味する。神は今日、試みのご自分の民に臨むのを許される。それは神が自分たちの助け主であられることを彼らが悟るためである。もし、彼らが試みられたときに、彼らがこのお方に近づくなら、このお方は彼らが試みに直面するために強めてくださる。」（天国で 251）

5. 全体的な見通しの中での試み

- a. キリストの内にとどまり、それによって試みから解放されるためにはわたしたちは常に何を選ばなければなりませんか（ルカによる福音書 4:8; ピリピン人への手紙 1:21）。

「誘惑者サタンはわれわれに悪をなすように強制することはできない。心がサタンの支配に屈しないかぎり、サタンはそれを支配することができない。サタンがわれわれの上に彼の力を働かせることができる前に、意志が同意し、信仰の手がキリストから離れねばならない。しかしわれわれの心のうちに宿っているあらゆる罪の思いはサタンに足場を与える。われわれが神の標準に達していない点は何れもみな開かれた戸であって、サタンはそこからはいつてきてわれわれを誘惑し、破滅させるのである。われわれの側で失敗したり、敗北したりするたびに、われわれはサタンがキリストを非難する機会を与えるのである。」（各時代の希望上巻 138, 139）

- b. キリストにある勝利に向かって突き進むために、何がわたしたちの動機となるべきですか（ピリピン人への手紙 4:13; ヨハネの黙示録 2:10（下旬）; 3:21）。

「キリストのみたまに満たされた人は、キリストのうちに宿っている。彼をねらう打撃は、ご臨在をもって囲んでいくださるキリストに当たる。彼に起こることはみなキリストを経てくるものである。キリストが彼の守り手であるから、彼は自分で悪に手向かう必要がない。主のゆるしかなければ、何物も彼に触れることはできない。そして許されることはみな、相共に働いて彼を愛する者たちの益となるのである。」（祝福の山 88）

「命の冠は勝利者の額の上のみおかれるのである。だれであっても命が続く限り、神のために熱心で厳粛な働きをしなければならない。」（教会への証 5 巻 71）

個人的な復習問題

- 次に困難な試練がわたしの道に訪れた時、何を思い起こす必要がありますか。
- 神が祈りにお答えになる方法についてわたしたちは何を認識しなければなりませんか。
- どこから試練と誘惑は来ますか、なぜですか。
- わたしたちが誘惑に抵抗するたびに何が起こりますか。
- どのようにすればもっと完全にキリストの内にとどまることができますか。

信仰を实践する

暗唱聖句：「そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。」（ヤコブの手紙 1:22）

「[人] は神の口から出るすべての言葉に従順であるようにと、またその言葉を聞くだけではなく、実行する者となるために選ばれている。」（牧師への証 454）

推奨文献： 教会への証 2巻 24-26, 50-55, 164, 165

日曜日

10月20日

1. 完全な与え主

a. わたしたちに対する神の計り知れない善意を明らかにするものは何ですか（ヤコブの手紙 1:17）。

「キリストのその子らに対する愛は強いと同時に優しいものである。そしてそれは死よりも強い。なぜなら神はわたしたちの救いを獲得するために、またわたしたちをこのお方と一つにするために、神秘的に永遠に一つになさるために死んでくださったからである。このお方の愛は非常に強いためにこのお方のすべての権力を支配し、ご自分の民に良い物をお与えになるために天の膨大な資源をお用いになる。それは変化とか回転の影とかいうものがなく、昨日も今日も永遠に同じなのである。罪は古くから存在し、この愛を打ち消し地上に流れるのを妨げようとしてきたが、キリストがそのために死なれた人々には今もお豊かな流れとなって流れているのである。

神はご自分に仕え、ご自分の命令に従順な罪のない天使たちを愛しておられる。しかしこのお方は彼らに恵みをお与えになることはない。彼らは一度も罪を犯したことがないから、それを必要としないのである。恵みは値しない人間に対して示される神の属性である。わたしたちがそれを追い求めたのではなく、それがわたしたちを捜すために送られたのである。神はわたしたちにそれに価するからではなく、価値がないゆえにそれに飢え渴いているすべての人に恵みをお与えになることをお喜びになるのである。わたしたちの必要こそ、賜物を受けるという保証をわたしたちに与える資格なのである。」（牧師への証 519）

b. わたしたちはどのように、またなぜ神から生まれるのでしょうか（ヤコブの手紙 1:18; ペテロの第一の手紙 1:23; 2:9）。

2. 熱を冷ます

- a. 怒りに満ちた世において、わたしたちはどのようにまたなぜ違った者となっていないなければならないのでしょうか (ヤコブの手紙 1:19)。

「お互いに非難の言葉を決して言わないように、かえってできるときはいつでも称賛しほめることをつねとしなさい。

抑制しないことがあたかも美德であるかのように思う者がある。彼らは心の中にある不愉快なことを率直に話す習慣をほめている。彼らは激しい非難とあらさがしの中で怒りの精神を使い尽くす。彼らは話せば話すほど興奮し、そしてサタンはその働きを助けるためにそばに立っている。その言葉は語られた者をいらだたせ、また投げ返され、さらに厳しい言葉を浴びせかけ、小さな問題が大きな炎に燃え上がるまで続くのである。あなたがたは両方とも、自分には耐えられるかぎりのあらゆる試練があり、自分の人生は最も不幸だと感じている。決意をもって、あなたの思想、言葉、行動を支配する働きを始めなさい。どちらかが憤りを感じた時、一人で神に向かって謙遜に祈ることをつねとしなさい。」(教会への証 4 巻 243)

- b. なぜかっとなりやすい性質を神はお嫌いになるのですか、またどのようにこれを治すことができますか (ヤコブの手紙 1:20)。

「ある人々は神経質で、挑発を受けて言葉にも精神にも自制心を失い始めると、大酒飲みがお酒を飲んだ時のように怒りに我を忘れる。彼らは理性を欠いており、容易に説得されたり納得したりしない。彼らはまともな判断ができない。サタンがその間完全に支配しているからである。これらの怒りの表明一つ一つは神経組織と道徳力を弱め、別の挑発に対して怒りを抑えるのをむずかしくする。

この種の人々に唯一つの治療薬がある。それはあらゆる状況のもとでの積極的な自制である。自我に対して、逆らうことがない場合には成功しているように見えるが、サタンはこの哀れな魂を何処で見つけたらよいかを知っており、その弱点をくり返し攻めるのである。彼らは自分自身を高く評価しているかぎり、たえず悩まされる。……しかし彼らにも希望がある。争闘と気苦労の激しいこの世の生活が、キリストとの交わりに入れられ、もう自己が最高位をやかましく要求することがないようにさせなさい。……彼らば私は不正を行ないました。許していただけますか。神は、わたしたちが怒ったまま目を沈ませてはならないと仰せになっていますから』と率直に言って、自分自身をへり下らせなければならない。これが勝利への唯一安全な道である。多くの人は……自分の怒りを大事に育て、復讐心にもえて、不愉快な感情に満たされる。」(神の息子娘たち 142)

3. 光を大事にする

a. わたしたち一人一人のための神の召しを説明しなさい(ヤコブの手紙 1:21)。

「ああ、真理の光、神から与えられた偉大な光を持っている人々が、神に逆らって罪を犯し、神がみ言葉の中ではならないと言われたことをなしてこのお方の怒りとさばきに齒向かうことができるであろうか。どのようにして彼らはサタンに対して盲目になり神の御顔を不名誉で汚し、故意に罪を犯して自分たちの魂を汚すことができるのであろうか。使徒は『こうしてわたしたちは全世界に、天使にも人々にも見世物にされたのだ』。これらの罪びとをわたしは偽善者と呼ぶべきであらうか。シオンにおいて尋ねなさい。わたしは世にとって、天使たちにとってそして人々にとってどのような方法において見世物となっているのであろうか。自分自身に答えなさい、これは神がわたしに与えて下さった光と特権、また憐れみを悪用したことによるのであり、魂を墮落させ汚した見苦しい行為によるのである。」(牧師への証 447)

b. 神のみ言葉は、特に終わりの時代に、わたしたちの救いとどのように関係しているでしょうか(テモテへの第二の手紙 3:15; コリント人への第一の手紙 15:1, 2)。

「人間の心に及ぶ御霊の本物の働きが、み言葉を通して能力を与えるために約束されている。キリストはみ言葉が霊であり、また命であると宣言なさっている。…

サタンは天使の衣をまとった人間の考案を導入するために最も狡猾な方法で働くであろう。しかしみ言葉からの光は道徳的な闇の真っただ中で輝く。そして聖書がその奇跡的な現れによって取って代わられるようなことは決してない。真理は研究されなければならない、隠された宝として探されなければならない。素晴らしい啓示はみ言葉とは別に与えられることはないし、み言葉の代わりに与えられるものでもない。み言葉に定着し、しっかりとつながったみ言葉を受け入れなさい。それが人々を救いに導く賢いものとする。」(セクレット・メッセージ 2 巻 100)

「真理を受け入れる者は、聖書を明確に理解し、生きた救い主についての経験的知識を求めるべきである。知性は精錬され、記憶力は鍛えられるべきである。あらゆる知的な怠慢は罪であり、霊的な昏睡は死である。」(教会への証 4 巻 399)

「キリストの教えのみことばが受け入れられ、これが私たちを占領するとき、イエスは私たちの内に永住して私たちの思いと考えと行いを支配される。私たちは、この世に現われた最も偉大な教師であるイエスの教えを吹き込まれる。」(青年への使命 156)

4. 神の律法の鏡

- a. わたしたちが自分の心を吟味することがなぜ重要なのですか (ヤコブの手紙 1:22-24)。

「多くの者は自分には持っていない美德のために称賛される。心を探られるお方は、多くの場合人々から高く称賛される行いは利己主義と偽善から生じたものとしてこのお方に記録される。わたしたちの人生のあらゆる行為はそれが優れていて称賛に値するものであろうと、あるいは非難に値するものであろうと、それを引き起こした動機に従って心を探られるお方によって判断される。

多くの者は品性の欠陥が明らかにされる鏡で自分自身を見ることを怠っている。したがって奇形と罪は存在し、たとえ墮落した者には理解できなくとも、ほかの者には明白になっている。利己主義という憎むべき罪は神の働きに献身していると公言する人々の中でさえもかなりの程度で存在している。もし彼らが自分の品性を神のご要求、特に偉大な標準である神の聖なる律法と比較するならば、またもし彼らが真剣で正直な探求者であれば、自分たちが恐ろしいほど欠けているということが解明されるであろう。しかし自分の心の墮落を十分見えるほど遠くや深くを見ようとしない者もある。彼らは非常に多くの点で欠けているにも関わらず、自分の罪を進んで無知なままであるのである。」(福音宣伝者 275, 276)

- b. キリストとこのお方のご意志に明け渡すことによってもたらされる創造の力を通して真の自由の美しさを説明しなさい (ヤコブの手紙 1:25; ヨハネによる福音書 8:32)。

「あがないの働きに強制はない。外部からの圧力は用いられない。神のみたまの影響下において、人はだれに仕えるかを自由に選ぶことができる。魂がキリストに屈服するときに行われる変化の中に、最高の意味の自由がある。罪を追い出すことは、その魂自身の行為である。なるほどわれわれは、サタンの支配からわが身を解放する力はない。だが罪から解放されたいと望み、非常な必要を感じて、われわれ以外の、そしてわれわれ以上の力を求めて叫ぶとき、魂の能力には聖霊の天来の力が吹きこまれ、その能力は神のみこころを成就することにおいて意思の命令に従うのである。

人間の自由が可能であるただ一つの条件は、キリストと一つになることである。「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」とあるが、キリストがその真理である (ヨハネ 8:32)。罪は、心を弱め、魂の自由を減らすことによるのみ勝利することができる。神に屈服することは、自分自身を回復すること、すなわち人間の真の栄光と威厳とを回復することである。われわれは、神の律法に従うようになったが、それは「自由の律法」である (ヤコブ 2:12)。」(各時代の希望中巻 255, 256)

5. 真の宗教

a. しばしば欠けているキリスト教の重要な側面をあげなさい (ヤコブの手紙 1:26)。

「キリストの与える助けを通して、わたしたちは舌を制することを学ぶことができる。短気になり言葉を読むように強く試みられた時にもキリストは唇で一度も罪を犯されなかった。このお方は大工の仕事場で、仲間の労働者たちの冷笑、嘲り、愚弄に忍耐強く静かに対応なさった。このお方は怒って答える代わりに美しいダビデの詩篇の一つを歌い始められた。するとこのお方の仲間たちは知らず知らずのうちにこのお方と一緒に歌っているのであった。もし今日、男女が言葉遣いにおいてキリストの模範に従うならば、この世界になんという変化が起こることであろうか。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 936)

b. 本物の宗教はどのように見えないところで静かに無我で活動しているでしょうか (ヤコブの手紙 1:27)。

「労する者となり、自己否定の働きを要求する善行を忍耐強く継続することは、栄光に満ちた働きであり、天がほほ笑む。忠実な働きは最も熱烈で最も聖なるものだと思われている礼拝よりも神に受け入れられる。真の礼拝とは、キリストと共に働くことである。祈り、訓告、言葉は、しばしば結びつけられる安い実である。しかし、困窮している人、みなしご、寡婦の世話をする良い働きに表された実は本物の実であり、自然に良い木に成長するのである。」(教会への証 2 巻 24)

個人的な復習問題

1. なぜわたしたちは永遠の天の神に自分の人生を委ねることができますか。
2. 自身が怒ってしまったことに気が付いたすべての人の義務は何ですか。
3. 神のみ言葉を自分で研究することがわたしにとって重要なのはなぜですか。
4. 何が真の自由であるかを説明しなさい。
5. どのように心から真の宗教の度合いをより大きく培うことができますか。

第一安息日献金 世界総会の文書支部のために

「一滴のインクが百万人に考えさせる」という有名な格言があります。印刷物は、その永続性から、単に話された言葉よりも重みがあります。書かれた資料であれば、自分のペースで時間をかけて読むことができ、また、学びたい情報を振り返ってより深く考えることができます。深い霊的なテーマを吸収しようとするときに役立ちます。

これは歴史を通じて真実でした。「ルターのペンは力であり、彼の著作は広まり、世界中を揺るがした。同じ手段

がわたしたちの意のままであり、設備は百倍にもなっている。聖書、この時代の真理を説く多くの言語で出版物がわたしたちの手中にあり、すぐに全世界へ届けることができる。」(教会への証 6 卷 403)。

「天から大いなる力で降りてきて、その栄光で地を明るくするもう一人の天使の働きは、わたしたちの出版社を通じて大部分成し遂げられるであろう。」(同上 7 卷 140)。

1849 年にジェームズ・ホワイトは現代の真理という小さい出版物を作成しました。「印刷物は、横 6 インチ、縦 8 インチの大きさと 8 ページのものであり、その題は、『現代の真理』であった。それは、1849 年 7 月のことであった。床の上に、印刷物の小さい山ができた。それから、兄弟姉妹たちは、その回りに集まって、目に涙を浮かべて、送り出される印刷物の上に神の祝福を祈り求めた。印刷物は、折って、包んで、宛名を書き、ジェームズ・ホワイトが、8 マイル離れたミドルタウンの郵便局に持って行った。こうして、セブンスデー・アドベンチストの印刷事業は始まったのである。」(初代文集 43)

この行為は、次のメッセージに対して応じたものでした。「『あなたにお伝えすべき言葉が、わたしに与えられました。あなたは、小冊子を印刷し始め、それを人々に送らなければなりません。初めは、小さいものでよいでしょう。しかし、人々が読むにつれて、印刷する資金を送って来ます。それは、最初から成功します。それは、この小さい出発から世界を取り巻く光の流れのようになることが、わたしに示されました』」(同上 125)。

送料が高騰し、国境の制限によりさらに高価な配布方法が必要になった場合はどうなるでしょうか。購読料ではこれらの新しい費用を賄うことはできません。したがって、初期の出版者に語られた預言を成就するには、仲間の信者の親切な寛大さに頼らなければなりません。「人々が読むと、彼らはあなたに資金を送ります。」

世界総会文書部へのこの第一安息日献金が、現在の真理を読む必要のある世界中の魂のために皆さんの心を動かし、さらに献金してくださいませよう祈ります。ありがとうございます！
世界総会文書支部の皆さんの兄弟より



偏見を克服する

暗唱聖句：「律法の違反者になったことになる。」(ローマ人への手紙 2:11)

「神は階級の差別をお認めにならない。このお方には階級というものはない。このお方の御目には善人であろうと悪人であろうと人間は単純に人間である。最後の報いの日に地位や、階級、または富によってだれかの状況がほんのわずかでも変わることはない。すべてを見通す神によって、人はその純潔さ、高潔さ、キリストへの愛においてどうかに従って裁かれるのである。」(管理職への勧告 162)

推奨文献： 教会への証 3巻 304-309, 320-329

日曜日

10月27日

1. 態度の問題

- a. わたしたちがおそらく自分自身でも気が付かないうちに犯しているかもしれない世の一般的な傾向を述べなさい(ヤコブの手紙 2:1-4)。

「貧しい人々にも裕福な人々と同様の関心と配慮をもって扱われるべきである。富める者は敬い、貧しい者を軽視し、ないがしろにするという行為は神の御目には有罪である。あらゆる快適な生活に囲まれている人、あるいは裕福であるがゆえに世間からはかわいがられ甘やかされている者は、人生が貧しさとの長い格闘であった人のようには同情や優しい配慮の必要性を感じない。」(教会への証 4巻 551)

「キリストは天の宮廷において富んでおられたのに、このお方が貧しくなられたのはこのお方の貧しさによってわたしたちが富む者となるためである。イエスは貧しい者たちの質素な境遇を分かち合い、彼らに敬意を払われた。このお方の人生の物語からわたしたちは貧しい者たちをどのように扱うかを学ばなければならない。」(同上 550)

- b. この世の財産においては貧しくても信仰は豊かな人々についてわたしたちは何を認識しなければなりませんか(ヤコブの手紙 2:5)。

2. 識別力と公平さ

- a. 貧しい人々を助けることに関してイエスが教えられた均整の取れた取り組みについて説明しなさい（マルコによる福音書 14:3-9）。

「ある人々は善行の義務を極端になし、困窮している者たちに対してやり過ぎてしまつて本当は傷つけてしまっている者がいる。貧しい者たちはいつも自分自身のなすべきことの力を発揮できるわけではない。彼らを見捨てたり、苦しむままに放置したりしてはならないが、彼らに自身を助ける方法を教えなければならない。

貧しい人々にわたしたちの最初の関心を向けるという神の御目的を見すごしてはならない。キリストはかつてこの点において非常に重要な教訓をご自分の弟子たちにお与えになった。マリヤがイエスの頭に香油を注いだ時、強欲なユダは貧しい人々のためにといい訳をして金の無駄遣いであると不平を言った。しかしイエスは次のように言われてその行為を正当化された。『なぜ女を困らせるのか。わたしにより事をしてくれたのだ』『全世界のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう』。これによってわたしたちはキリストがわたしたちの財産から最高の物をお捧げすることによって尊ばれるのだということが教えられている。わたしたちのすべての注意が貧しい者の要求を満たすことに向けられるならば、神の御事業がないがしろにされてしまうことであろう。このお方の管理者たちが彼らの義務を果たすなら、どちらも苦しむことはないが、キリストの御事業が第一にされるべきである。」（教会への証 4 巻 550, 551）

- b. 古代のイスラエルにおいて、さばきを執行する人々にはどのような態度が求められていましたか（レビ記 19:15; 申命記 1:17; 10:17）。
- c. 今日、教会の指導的な組織にいるすべての人は、どのようにこれと同じ原則を適用することを学ぶべきですか（ペテロの第一の手紙 1:17; コロサイ人への手紙 3:25）。

「自分の愛情や関心を一人かまたは二人に結び付けて、ほかの人には損害をもたらすような偏愛をするような者は、一日たりともその地位にとどめるべきではない。良心的で神を畏れ、神の御目から見てより価値のある者たちはないがしろにして、気まぐれな人を喜ばせるような特別な人々にあらず聖化されていない偏愛は、神にとって侮辱的である。神が高く評価なさるものをわたしたちも評価すべきである。神は柔和で穏やかな霊的な飾りを外見の美しさ、うわべだけの飾り、富、または世俗的な名誉などよりも高い価値があるとみなしておられるのである。」（同上 3 巻 24）

3. より良い習慣を形成する

- a. ヤコブは信者であると公言する人々の物質的な偏見についてどのように叱責していますか、またこれがなぜ深刻な問題なのですか（ヤコブの手紙 2:6, 7）。

「『あなたがたに対して唱えられた尊い御名』（ヤコブ 2:7）を汚すことのないように祈ることを望むのである。神はあなたがたを神の代表者として世におつかわしになる。生活のあらゆる行ないのうちに、あなたがたは神のみ名をあらわすべきである。この願いは、神のご品性を持つことを要求する。生活と品性において神のいのちとご品性そのものをあらわさないならば、神のみ名をあがめることも、世に神をあらわすこともできない。このことは、キリストの恵みと義を受けることによつてのみなされるのである。」（祝福の山 134）

- b. キリストを正しく表すことにおいて、わたしたちはどのように唯一勝利することができますか（ローマ人への手紙 2:11; 箴言 23:7）。

「人性と神性を兼ねそなえておられるキリストの品性をよく学び、『もしキリストがわたしの立場におられたらどうなさるか』と、つねに尋ねなさい。これがわたしたちの仕事を量る基準でなければならない。正しいことをしようとする決意を謀略によつて弱めたり、良心を汚したりする人との交わりに不必要にはいつてはならない。少しでも悪く見えることは道路上であれ、家庭であれ、他人にしてはならない。キリストがご自分の血潮をもつてあがなわれた生命を向上させ、美化し、高尚にするために、毎日何かなさい。

つねに原則によつて行動し、決して衝動にかられてふるまってはならない。生来持っている性急な性質を柔和と謙そんをもつて和らげ、軽薄な、くだらない事にふけてはならない。低級な『しゃれ』など、一言も口から飛ばすべきでなく、思想も放縦に流れるままに放任してはならない。それは制御し、とりこにしてキリストに従わせなければならない。聖なることを思いなさい。そうすれば、キリストの恵みによつて純潔となり、真実なものとなる。

わたしたちは純潔な思想がもたらす高尚な力を絶えず念頭におかなければならない。どんな人でも安全な道はただ一つ、正しく考えることである。……

人のことをよく言う習慣を養成しなさい。交わっている友人のよい特質に留意し、その過失や欠点はできるかぎり見ないようにし、だれかの言行を悪く言いたくなったら、その人の生活や品性のどこかをほめなさい。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 476, 477）

4. 王家のふるまいをする

- a. 聖書はわたしたちのクリスチャン信仰に本当に不可欠なものとして何を強調していますか、それはなぜですか（ヤコブの手紙 2:8）。

「多くの宗教教師たちは、キリストはご自分の死によって律法を廃された、それゆえに人はその要求から解放されている、と主張する。なかには、律法を重苦しいくびきであると言い、律法の束縛とは対照的に、福音の下において自由が享受できると主張する人々もいる。

しかし、預言者や使徒たちは、神の聖なる律法をそのようには見なさなかった。『わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます』（詩篇 119:45）。キリストの死後に書いた使徒ヤコブは、十誡を『尊い律法』『完全な自由の律法』と言っている（ヤコブ 2:8; 1:25）。そして、十字架から、半世紀の後に、ヨハネは、『いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の律法を行なう者』はさいわいであると言明している（黙示録 22:14 欽定訳）。（各時代の大争闘下巻 193）

「人がキリストに服従するとき、その精神は律法の支配を受けるようになるが、それはすべての捕虜に自由を与える王の律法である。キリストと一体になることによって人間は自由とされるのである。キリストの意志に従うことは完全な人間の資格を回復することになる。

神に服従するとき、人間は罪の束縛から自由になり、人間的な情欲や衝動から救われる。自己に勝利し、その性癖に打ち勝ち、『もろもろの支配と、権威』また『やみの世の主権者』『天上にいる悪の霊』に勝利する者となれるのである（エペソ 6:12）。（ミストリー・オブ・ヒーリング 102）

- b. 偏見、偏愛、先入観などを持つことはどのようにキリストのためのわたしたちの証を不快に損なうのでしょうか（ヤコブの手紙 2:9）。

「わたしたちは、キリストのしもべであると主張し、神のことばの中の真理を全部信じるという試みでも、信じるのがわたしたちの日常生活のなかで行なわれていないならば、隣人に対してなんの役にも立たない。どんなにりっぱなことを口で言ってみても、わたしたちが、クリスチャンでないならば、自分を救うことも、同胞を救うこともできない。わたしたちの言うすべてのことばよりも、一つの正しい模範が、世界を益するのである。」（キリストの実物教訓 361）

5. 思いやりのある賢明な教え

- a. 神の道德律を守るために、そしてこの真理を次の世代に伝えるために、何を心にとめなければなりませんか(伝道の書 11:9; 12:13, 14; ヤコブの手紙 2:10-13)。

「少年少女たちは生来自由を愛する心をもっている。彼らは自由を欲する。しかし、この測りつくせぬとうとい祝福は神の律法に服従するときのみ与えられるということを理解しなければならない。この律法こそは真の自由を保護するものである。律法は、人を墮落させ奴隷化させるものを指摘してこれを禁じ、律法に従う者を悪い力から保護するものである。

詩篇記者は言う、『わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます。』『あなたのあかしは、わたしを喜ばせ、わたしを教えさすものです。』(詩篇 119:45,24) 悪を正すとき気をつけなければならないことは、あら探しやとがめだての傾向である。始終とがめてばかりいると、正すよりもむしろ迷惑させる。たいていの子供たちにとって、特に繊細な感受性を持っている子供にとっては、同情の欠けた批判的な空気は本人の努力を殺してしまう。冷たい風の中では花は開かない。

しかるということの真の目的は、悪いことをした本人がその過失をみとめてこれを直そうという意志を持ったときにはじめて達せられるのである。この目的を達することができたなら、つぎに許しと力の源を示さなければならない。本人に自尊心を保たせ、勇気と希望を鼓舞しなければならない。

この働きは人間にゆだねられたもつともりっぱなそしてまたもつとも困難な働きである。そのためにはもつとも巧みな機知と繊細な感受性と、人間性についての知識と天来の信仰と忍耐と、働き見守りそして待つ気持ちがなくってはならない。これはどんなことよりも大事な働きである。」(教育 342, 343)

個人的な復習問題

1. わたしは多くを持っていないかもしれませんが、それよりも少ない他の人たちについて何を認識しなければなりませんか。
2. ある人々に対して盲目的な偏見、または不正な先入観を持つことがどれほどたやすいでしょうか。
3. わたしたちの思考パターンが、そのような人々を扱う際にどのような影響を与えますか。
4. なぜ神の律法は自由の律法と呼ばれているのでしょうか。
5. 誤った考え方を持っている人に教える際に取るべき態度を述べなさい。

行動における信仰

暗唱聖句：「ああ、愚かな人よ。行いを伴わない信仰のむなしいことを知りたいのか。」
(ヤコブの手紙 2:20)

「善行は一人の魂でさえも救わないが、しかし善行なしに一人の魂でさえも救われることは不可能である。」(信仰と行い 111)

推奨文献： 初代文集 374-377, 437-442

日曜日

11月3日

1. 信仰と模範

a. わたしたちが告白する信仰に完全に調和して生きることが絶対に必要なのはなぜですか (コリント人への第一の手紙 4:9; ヨハネの第一の手紙 5:3; ヤコブの手紙 2:14)。

「神の要求を一つでも故意に犯していながら、清くなれると信じて、自分を欺いてはならない。罪と知りながらそれを犯すことは、聖霊のあかしの声を沈黙させ、魂を神から引き離すものである。」(各時代の争闘下巻 201)

「その人の生活の証は彼が公言している信仰に真実であるかどうかを世に明らかにするものである。あなたの行いは世の友人たちの評価において神の律法を低める。それは彼らにこう告げる。『あなたは戒めに従っても従わなくてもよいのです。わたしは神の律法はある意味では人に対して拘束力のあるものであると信じています。しかし結局のところ、主は教えを厳格に順守することにそれほど気難しくはなく、時折の違反にこのお方が厳しく臨まれることはありません。』

多くの者があなたの模範を引き合いに出して自分たちが安息日を破ったことを言い訳する。もし七日を安息日であると信じる善良な人が、状況が必要と思われる時、その日に世俗的な活動に携わることができるのであれば、きっと非難されることなく同じことをすることができるだろうと論じる。多くの魂がさばぎの場であなたと顔を合わせ、あなたの影響力を自分たちが神の律法に従わなかった言い訳にするのである。とはいえこれは彼らの罪に対する弁解にはならないが、それでもあなたに対して恐ろしいことを告げるであろう。」(教会への証 4巻 250)

2. 天と地が見ている

- a. ヤコブは行いを伴わないむなししい口先だけの偽善を描写するためにどのような例を挙げていますか(ヤコブの手紙 2:15-17)。

「十戒の律法に基づいて説教できる最も雄弁な説教はそれを実行することである。従順は個人的な義務とされるべきである。この義務を怠ることは重大な罪である。神はわたしたちが自ら天を確保するばかりでなく、他の人々に道を示すこと、わたしたちの心遣いと無我の愛を通して、自分の感化力の範疇に来る人々をキリストへと導くことを拘束力のある義務と感じる責任の下にわたしたちをおいておられる。多くの自称クリスチヤンの生活の特徴づけている原則の特異な欠如は憂慮すべきである。神の律法を無視することは、その神聖な御要求を認める人々を落胆させ、またそうでなければ律法を受け入れようとする人々を真理から遠ざける傾向にある。」(教会への証 4 巻 58 [著者強調])

- b. キリストを信じる本物の信仰とは、どういう意味ですか(ヤコブの手紙 2:18; マタイによる福音書 6:24)。

「神が語られたのであるから、人は従わなければならない。彼はそれをなすときに彼にとって都合がよいかどうかを尋ねることをしない。命と栄光の主は不従順の結果から人間を救い出すために、不名誉と死を受け入れ悲しみの人で病を知っておられるお方となるために最高司令官の地位を離れた時、ご自分の都合やご自分を喜ばせることをお考えにならなかった。イエスは人をその罪の内ではなく、彼を罪から救うために死なれた。人は自分の誤った道から離れ、キリストの模範に倣い、自分の十字架を背負ってこのお方に従い、自己を否定し、どんな犠牲を払ってでも神に従うべきである。…

もしわたしたちが真に神の僕であるなら、神の戒めに従うかそれとも自分の一時的な利益を優先するかについてわたしたちの思いになんの疑問も起こらないはずである。もし真理を信じる者たちがこの比較的平和な日々、その信仰によって支えられていないとしたならば、大いなる試練が来て獣の像を礼拝せずその額や手に獣の刻印を受けようとする者たちすべてに対する法令が出された時に、何が彼らを守るのであろうか。この厳粛な時はそれほど遠くない。神の民は弱く優柔不断になるのではなく、悩みの時に備えて勇氣と強さを集めているべきである。」(同上 250, 251 [著者強調])

3. アブラハムから学ぶ

- a. わたしたちはどのような悲惨な霊的状态について厳粛に警告されているでしょうか (ヤコブの手紙 2:19)。

「多くの者はイエス・キリストが世の救い主であることを認めているが、同時にこの方から遠ざかり、自分たちの罪を悔い改めず、イエスを個人的な救い主として受け入れることをしない。彼らの信仰は単に心の同意と真理を判断することだけである。しかし真理は魂を聖化し、品性を変化させるために心にもたらされなければならない。」(レクテッド・メッセージ 1巻 389, 390)

「あなたはすべての真理を信じているかもしれない。しかしもしその原則があなたの生活の中で実行されないのであれば、あなたの公言はあなたを救うことはできない。サタンは信じておののいている。彼は働いている。彼は自分の時が短いことを知っており、自分の信仰に従って悪を働くために大いなる力を伴って下ってきたのである。しかし神の民であると公言する人々は自分たちの行いによって信仰を支えているのではない。彼らは時の短いことを信じていながら、あたかも世が今のように千年も続くかのようにこの世の財産を熱心に追い求めている。」(教会への証 2巻 161)

- b. わたしたちはアブラハムの模範によってどのように動機づけられることができるでしょうか (ローマ人への手紙 4:1-3; ヤコブの手紙 2:20-22)。

「アブラハムは神を信じた。われわれは彼が信じたということを知ることができるのか。彼の行いが彼の信仰の性質を証明しており、彼の信仰は義とみなされた。

今日もわれわれは、われわれの周囲を覆って、神の愛の快い日光を締め出し霊的成長を妨げている暗黒を明るくするためにアブラハムの信仰を必要としている。…イエスの名においてなされるすべての義務、すべての犠牲は非常に大いなる報いをもたらす。義務の行為そのものによって神は語られ、祝福を与えられる。」(SDA パブル・コメント [E・G・初ト・コト] 7巻 936)

「人は信仰によって義とされるが、行いに応じて裁かれ報われる。」(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1884年 11月 20日)

「神の戒めを守るためには神はわたしたちに良い行い、自己否定、自己犠牲、そしてほかの人への献身的愛情を要求しておられる。良い行いだけで救われるのではないが、良い行いがなければ確かにわたしたちは救われることができない。自分たちがなしたことをすべてなし終えた後、わたしたちはこう言おう『わたしたちは義務を行ったにすぎないふつつかな僕です。神からの少しの恩恵にも値しません』と。キリストはわたしたちの義でありわたしたちの喜びの冠でなければならない。」(同上 526)

4. 励ましの言葉

- a. アブラハムの生活の型がキリストを信じるわたしたち自身の人生にどのように反映されるべきかを説明しなさい (創世記 26:5; ヤコブの手紙 2:23, 24)。

「良い行いは信仰の実である。神が心の中で働き、人が自分の意志を神に明け渡し、そして神と協力する時、神が御霊によって働かれることを彼は生活の中で実現し、心の目的と生活の実践の間には調和がある。あらゆる罪は命と栄光の主を十字架につけた憎むべきものとして放棄されなければならない、信者はキリストのみ働きを絶えず行うことによって進歩的な経験をしなければならぬ。義認の祝福が保持されるのは、意志の継続的な明け渡し、継続的な従順によってである。

信仰によって義とされた者は主の道を守る心を持たなければならない。自分の行いがその働きに一致していない時、それはその人が信仰によって義とされていないことの証拠である。ヤコブは『あなたがたが知っているとおりに、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ』と言っている (ヤコブ 2:22)。

良い行いをもたらさない信仰は、魂を義とすることはできない。」(レクテッド・メッセージ 1 卷 397)

- b. 今日異邦人に証をするすべての人が神が義とされた人物として遊女ラハブが引用されていることになぜ励まされるのでしょうか (ヤコブの手紙 2:25; ヘブル人への手紙 11:31)。

「邪悪なエリコの町において、異教徒の女は『あなたがたの神、主は上の天にも、下の地にも、神でいらせられるからです。』とあかしした (ヨシュア記 2:11)。このようにして彼女に与えられた主についての知識が、彼女を救ったのである。……彼女の改心は、神の権威を認めた偶像礼拝者に対する神のあわれみのただ一つの例ではなかった。」(国と指導者上巻 337)

「カナンびとラハブやモアブびとルツのように、偶像礼拝からまことの神の礼拝へ立ち帰った者はみな、神の選民に加えられるのであった。」(キリストの実物教訓 268)

「わたしたちの都市では偉大な仕事がなされるべきであり、畑は収穫のために熟している。わたしたちの注意はあらゆる方向に向けられるべきである。なぜなら、キリスト教徒の地でも異教徒の地でも両方で悔い改めた魂が助けを求めて声をあげているからである。自己を高めるようなことがみじんだりともあってはならない。あなたの唯一の安全は神を信頼することである。」(世界総会冊子 1895 年 4 月 1 日)

5. 勝利へのかぎ

- a. わたしたちはどのようにキリストにあつて勝利を得ることができるかを説明しなさい (ヤコブの手紙 2:26; ペテロの第二の手紙 1:3, 4)。

「イエスへの信仰を持ち、イエスによって救われたと信じることは重要不可欠である。しかし多くの人が取る『わたしは救われている』という立場をとるのは危険である。多くの者は次のように言う『あなたは良い行いをしなければならぬ、そうすればあなたは生きるでしょう』。しかしキリストから離れてはだれも良い行いをすることはできない。現代多くの者が『信じなさい、ただ信じなさい、そうすれば生きられる』と言っている。信仰と行いは共に調和しており、信じることと、行うことは混ぜ合わされている。主はアダムが墮落する前にパラダイスでこのお方がお求めになったのと同じように、今日も魂に求めておられるのは完全な従順と汚れのない義である。恵みの契約の下での神のご要求は神がパラダイスでなされた要求と同じように広大である。それは聖であり、義であり、善である神の律法と調和することである。…信仰がいかなるものであろうと、生活がいかに不完全であろうと、神は真心をもって受け入れて下さるといふ生来の心に心地よい思い込みをだれも抱いてはならない。神はご自分の子らに完全な従順をお求めになる。

律法の要求を満たすためにわたしたちの信仰はキリストの義をつかみ、それをわたしたちの義として受け入れなければならない。キリストとの結合を通して、信仰によってこのお方の義を受け入れることを通して、わたしたちは神のみ働きを行うことができ、キリストと協力するのに適任の者となることができるのである。もしあなたが悪の潮流に身を任せ、永遠の義がもたらされるようにあなたの家族や教会における罪を抑制するために天の機関と協力しないなら、あなたは信仰を持っていない。信仰は愛によって働き魂を清める。信仰を通して聖霊は心に働きかけ、そこに清さを創造なさる。しかし人間の代理人がキリストと共に働かない限りこれはすることができない。…キリストの義を得るためには、わたしたちは日々御霊の影響によって聖化され、神聖なご性質にあずかる者とならねばならない。」(セクレット・メッセージ 1巻 373, 374)

個人的な復習問題

1. 神の律法を守ると主張することにおいて、わたしたちは自分の影響について何を認識しなければなりませんか。
2. 天はクリスチャン信者に何を求めておられますか。
3. なぜアブラハムはしばしば信仰の父として引用されるのでしょうか。
4. わたしの知り合いの中で、改心したラハブになる可能性のある人はだれでしょうか。
5. クリスチャンとして勝利する経験を得るためにはどうしたらよいでしょうか。

わたしたちの口を開く前に祈る

暗唱聖句：「わたしに教えよ、そうすればわたしは黙るであろう。わたしの誤っている所をわたしに悟らせよ。」（ヨブ記 6:24）

『「もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。』。わたしたちの道を照らす光、わたしたちの良心に訴える真理は、魂を責めて滅ぼすか、もしくはそれを聖化し変化させるかのいずれかである。わたしたちは表面的な働きに満足しているにはあまりにも恩恵期間の終わり近くに生存している。」（教会への証 1巻 308）

推奨文献： 教会への証 2巻 50-55, 314-318; 5巻 55-59, 175-177

日曜日 11月10日

1. わたしたちの自我をしずめる

- a. いつもすぐに他の人々を支配しようとする人々は、何を心にとめているべきですか（ヤコブの手紙 3:1; マルコによる福音書 9:35）。

「神はすべての人に自分の魂を取り囲む感化力に対して、自分自身のために、また他人のために責任を問われる。」（両親、教師、生徒への勧告 102）

「生来、人間は自己中心で自分の意見に固執する。しかし、利己心はキリストが教えたいと望まれる教訓を学ぶ人々の生活から消える。彼らは神性にあずかる者となり、キリストが彼らのうちに生きる。彼らはすべての人は自分の兄弟であり、同様の大志、能力、誘惑、試練をもち、また同情を切望し、支援を必要としているものとみなす。

決して同胞の人間をへりくだらせてはならない。過ちが犯されたのを見るとき、彼らに自分自身の経験を語ることによって、過ちを犯した人々を助けるために力の限りを尽くすべきである。自分が嘆かわしい間違いをおかした時に、同胞の働き人たちの側での忍耐と交わり、親切、助けが、どれほど勇気と希望を与えてくれたかを語ろう。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1904年5月11日）

2. より良い態度を培う

- a. 自分自身の間違いは認めようとせずに、他の人には厳しい人々に、どのようなするどい譴責が与えられていますか (伝道の書 7:20; ヤコブの手紙 3:2 (上句))。

「あなたは自分自身の不足を見極め、自ら義の武具を全身に身につけないであろうか。神が辱められ、このお方の真理が誤って表されることがないように、あなたは他の人々に対してするように、自分自身の精神と気質と言葉をよく見張り、批評しないであろうか。もしあなたがこうするならば、あなたの識別力は大いに向上するであろう。真理、生きたみ言葉は、あなたの骨のうちに燃える火が閉じ込められたようになり、はっきりとした間違いのような明確さで世に対してキリストをあらわしつつ輝き出るのである。…

自らを探偵にする人々はだれも、自分たちが支配力になろうと奮闘するためにとってきた立場の傾向を認めることができないのであるか。彼らのはっきりした霊的視力は、どこにあるだろう。なぜ彼らは自分自身の目にある梁は認められないのに兄弟の目にあるちりを認めるのであろうか。」(牧師への証 295, 296)

- b. 人が道徳的な完全の標準に到達したことを示すのは何ですか。またどのようにしてのみ、それが可能ですか (ヤコブの手紙 3:2; コリント人への第一の手紙 13:5 (下句))。

「制せられていない舌がその清くない働きをなすところでは、主の喜びは宿ることができない。

疑う人々、自分の兄弟を悪く考え、悪く語る人々は、自分が悪魔の仕事をしていることを覚えていなさい。教会員各自は病んだ肢体、すなわち舌を癒していただくために、真剣な決心をもって働き、助けを求めて祈ろう。小さな相違や過ちにはだまってやり過ごすことが、自分の義務であり、特権であると感じるようにしよう。だれかの犯した小さな間違いを大きくせず、その人のうちにある良いところを考えよう。これらの間違いは考えたり、語ったりするたびに大きくなる。もぐら塚から山ができる。結果は、悪感情と信頼の欠如である。」(オーストラリア・エニヴ・レオド 1903年4月15日)

「あなたは自分の言葉を良く守るということを神と契約しなさい。『もし、言葉の上であやまちない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。…その全身を引きまわすことができる。』(ヤコブ 3:2, 3)。復讐的な言葉で、勝利を得たと感じることは決してない。キリストがあなたを通して語るようにしよう。悪を思わないことからたらされる祝福を失ってはならない。」(教会への証 7巻 243)

3. それは根元で始まる

- a. わたしたちが憤りを心に密かにいだいているとき後に続く誤った方向をたどりなさい。またこれを避ける唯一の方法を説明しなさい（ヘブル人への手紙 12:15；ヤコブの手紙 3:3-5）。

「あなたはあなたの夫やあなたを傷つけてきた人々に対して憤りをいだきつづけてきたが、自分が誤ってきたところを認識せず、あなた自身の誤った一連の行動によって問題を悪化させてきた。あなたの精神はあなたに不正を行ってきた人々に対して苦々しく、あなたの感情はあらゆる激しい非難のうちにはけ口を見出してきた。これはあなたの重荷を負った心に一時的な救済をもたらすであろうが、あなたの魂に長く傷を残してきた。舌は小さな肢体であるが、あなたはそれを不適切に用いて培い、ついに燃やし尽くす火となった。

すべてこれらのことはあなたの霊的な前進を阻む傾向をもっている。しかし、神はあなたが忍耐強く、許すものとなることがどれほど難しいかをご覧になっており、またどのように憐れみ、助けるべきかをご存知である。このお方はあなたに自分の生活を改革するように、あなたの欠点を正すように要求しておられる。あなたの堅く屈しない精神がこのお方の恵みによって征服されることを望んでおられる。あなたは神の助けを求めべきである。なぜなら、あなたには嵐と争いの代わりに、平安と静けさが必要だからである。キリストの宗教はあなたに衝動によって動くことを減じ、もっと聖化された理性と沈静な判断で動くよう命じる。」（教会への証 4 巻 139）

- b. わたしたちは自分が口にする言葉について、何を自覚しなければなりませんか（ヤコブの手紙 3:6）。

「あなたの宝がどこにあるかを、あなたの言葉が宣言し、あなたの行動が示す。」（同上 1 巻 698, 699）

「F 姉妹は衝動から動き、欠点を見つけ、そして自分の兄弟姉妹に対してあまりにも多く言いすぎた。これがどの教会においても混乱を生じさせるであろう。」（同上 2 巻 51）

「キリストのしもべたちに対して、中傷と偽りの言葉をたどることを喜ぶ人々は、神が自分たちの行いの証人であることを覚えていなさい。彼らの中傷的な接触は、魂のない器を冒瀆しているのではなく、キリストがご自分の血で買われた人々の品性を冒瀆しているのである。ベルシャザルの宮殿のかべに文字をつづった手は、神の民に対して犯された不正や圧迫の一つ一つの行為を忠実に記録し続けている。」（同上 5 巻 244, 245）

4. たとえ事実に基づいて起こったとしても…

- a. わたしたちの時代によく見られるどのような危険な傾向に関して、強い訴えがなされていますか（詩篇 15:1-3; コリント人への第一の手紙 13:6）。

「困ったことを喜び、報告せよ、そうすればわたしも報告しよう、と言うおしやべりの舌は、使徒ヤコブによって地獄の火で焼かれると宣言されている。それは至る所に燃え木をまき散らす。無実な人を中傷するゴシップの物売りは何を気にするだろう？彼はすでに自分の重荷で沈みかけている人々のうちに希望や勇気を破壊しようと、自分の悪行をとどめようとはしない。彼は自分のスキャンダルを愛する警告にふけることしか気に留めない。クリスチャンだと公言する人々でさえ、これらの純潔で、正直で、高潔で、愛すべきものすべてに対して目を閉じ、不快でいやな事柄を何でも、世に吹聴する。

あなたは自らをサタンが入って来られるように扉を開いておいた。彼にあなたの調査、もしくは尋問会議において賓客の場所を与えてきた。しかし、あなたは忠誠の数年間によって打ち立てられてきた品性の卓越さには何の経緯も示さなかった。嫉妬深く、復讐的な舌は、自分自身の考えに合わせて、行動や動機を色づけてきた。彼らは黒を白に、白を黒に見えるようにしてきた。彼らの言葉に対して抗議されると、だれかが『それは事実だ』と述べてきた。事実が述べられていることを認めたら、それがあなたの行動方針を正当化するのだろうか。否、そうではない。もし神が事実のうちにあなたに対してもたらされるであろう告発をみな取り上げ、あなたを罰するためにそれらを結び合わせてむちとするなら、あなたの傷は、兄弟_____に負わせられた傷よりもっと深いことであろう。事実であっても、誤った印象を伝えるようなやり方で述べられる可能性がある。あなたには人に不利となるすべての報告を集めて、それらをその人の評判をそこなったり、その人の有用性を減ぼしたりするために用いる権利はない。あなたが自分の兄弟に対して表したのと同じ精神を主があなたに対して表されたら、あなたは憐れみなく減ぼされることであろう。あなたに良心の呵責はないのだろうか？わたしはないのではないかと恐れる。この悪魔的な魔術が力を失う時はまだ来ていない。もし兄弟_____があなたの言うとおりのものだったとして、しかし、彼はそうではないとわたしは知っているが、あなたの一連の行動はなお不正である。

わたしたちが自分の兄弟に対する非難を聞くと、その非難を取り上げているのである。…〔詩篇 15:1-3 引用〕。（教会への証 5 巻 57, 58）

- b. 主に対して忌むべき七つの罪の中で、どれくらいがわたしたちの言葉に関するのですか（箴言 6:16-19）。

5. 傷つける武器

- a. うわさ話というあまりにも一般的な習慣を、どのように、またなぜ避けなければなりませんか(ヨブ記 6:24; 箴言 11:13; 26:20-22)。

「もしすべての人が、自分に他人の欠点を話す人は、自分の欠点も機会があれば躊躇なく言い広めるということを覚えているなら、どれほどうわさ話の世界が防げることであろう。わたしたちがすべての人、特に自分たちの兄弟について、逆に考えるを得ないところまでは、良く考えるように努力すべきである。すぐに悪い報告を信用してはならない。それらはしばしば妬みや誤解の結果であり、あるいは誇張や事実の一部しか明らかにされていないために生じたものである。嫉妬や疑いがいったん場所を得ると、それ自体、あざみの冠毛のように広く種を蒔き始める。兄弟がさまよったなら、その時こそ、あなたが本当の関心を示すべき時である。親切に彼のところへ行き、彼と共に、彼のために祈り、キリストが彼の贖いのために支払われた無限の代価を覚えなさい。この方法によって、あなたは魂を死から救い、多くの罪をおおふことができる。

一つのまなざし、一つの言葉、一つの声でさえ、偽りをもって、だれかの心にとげのある矢のように入り、いやし得ない傷を負わせるかもしれない。こうして疑い、非難は、神がその人を通して良い働きをなすとげようとした人に投げかけられ、彼の感化力が傷つけられ、彼の有用性が破壊される。ある種の動物の中には、もし自分たちの数の中の一匹が傷つき倒れると、すぐにその仲間たちが襲いかかって八つ裂きにされる。同じ残酷な精神がクリスチャンという名を帯びた男女によってほしほしにされている。彼らは自分たちよりも罪の少ない人々に石を投げつけようとパリサイ人的な熱心さを表す。自分自身の欠点や失敗から注意をそらすために、あるいは神や教会に対する大いに熱心であるとの信用を得ようとして、他の人々の欠点や失敗を指し示す人々がある。」(教会への証 5 巻 58, 59)

「あまりにもしばしば何もしないで無駄に過ごすよりもさらに悪い軽薄で悪意のある噂に捧げられている時間は、より高く尊い目的のために捧げられるべきである。」(同上 176)

個人的な復習問題

1. なぜわたしは何にでも意見する傾向にある声の調子を落とすべきなのですか。
2. しばしば見過ごされてしまうクリスチャン品性の命にかかわる局面をあげなさい。
3. わたしたちが他の人々の前で同胞信者を信用しないとき、神はどのようにご覧になりますか。
4. わたしは詩篇 15 篇から何を学ぶ必要がありますか。またなぜそれは重要なのですか。
5. 兄弟の中に不和の種を蒔くことについて、わたしはどのように罪があるかもしれませんか。なぜわたしはやめなければならないのですか。

何について考えるかを選択する

暗唱聖句：「あなたがたは悪い者であるのに、どうして良いことを語ることができようか。おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである。」(マタイによる福音書 12:34 下句)

「語る前に祈りなさい。そうすれば天使があなたを助けに来て、あなたが神を辱め、このお方のみ事業を非難したり、あなた自身の魂を弱めるように導く悪天使たちを押し返すであろう。」(教会への証 2 巻 82)

推奨文献： 祝福の山 156 - 160

日曜日

11月17日

1. 毒に対する解毒剤

- a. わたしたちが悪いことを考える人の言葉の習慣によって砲撃されるとき、わたしたちに対する神のメッセージは、そのただ中であってさえ何ですか(ヤコブの手紙 3:7, 8; ヘブル人への手紙 10:38)。

「[J 兄弟] は天使たちによって哀れまれている。なぜなら、彼のまわりを闇が囲んでいるからである。彼の耳はほとんど絶えまなく不信と闇の言葉を聞いている。彼の前には絶えず疑いと疑問が投げかけられてきた。舌は不義の世界である。『舌を制しうる人は、ひとりもない。それは、制しにくい悪であって、死の毒に満ちている。』もし J 兄弟が神にもっと固くよりすがり、彼は自分の生来の命を犠牲にしても神のみ前に自分の高潔さを維持すべきだと感じるならば、彼は上よりの力を受けるであろう。もし彼を取り囲む闇と不信一疑いと疑問と多くのおしやべりーによって自分の信仰が影響されるのを許してしまうならば、彼はまもなく完全な闇と疑いと不信になり、真理における光も力もなくなってしまうであろう。

彼はわたしたちの信仰に対して敵意をいんでいる自分の友と妥協することを求めることによって、自らの状況を楽にしようとする必要はない。もし彼がどのような代価を払っても神に従うという一つの目的をもって耐えるならば、彼は助けと力を受ける。神は J 兄弟を愛し、哀れんでおられる。このお方は一つ一つの困惑、失望、辛辣な言葉をご存知である。このお方はすべてを良く知っておられる。もし彼が自分の不信をわきへおき、動かされることなく神のうちに立つならば、彼の信仰は働かせることによって強められるのである。」(教会への証 4 巻 236, 237)

2. 深刻な問題

- a. 欺瞞的で扇動的な言葉について、なんと記されていますか。またなぜわたしたちはこの生活の局面において勝利することを祈らなければならないのですか（詩篇 5:8-10）。

「言葉は神から人への大きな賜物の一つである。舌は小さな肢体であるが、舌が形成する言葉、声によって発生される言葉には大きな力がある。主は次のように宣言される。『舌を制しうる人は、ひとりもない。』それは国を国に対して対立させ、戦いや流血を生じさせてきた。言葉は消しがたい火をつけてきた。それらはまた多くの魂に喜びや幸福をもたらしてきた。そして『わたしの言葉を彼らに語りなさい』と神が言われるがゆえに言葉が語られるときは、それらはしばしば悔い改めに至る悲しみを生じさせる。

言葉のタラントには、大いなる責任が伴っている。注意深く守られなければならない。なぜなら、それは悪に対しても善に対しても同様に大きな力だからである。（SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホフ・コメント] 3 巻 1142）

「制せられていない肢体の手綱をゆるめる誘惑にあうとき、ああ、記録天使が一言一言書き留めていることを覚えていなさい。書物にすべてが記されている。そしてキリストの血によって洗い去られるのでなければ、あなたはそれらにもう一度直面しなければならない。あなたはいま天にしみのついた記録を持っている。神のみ前での真心からの悔い改めは受け入れられる。感情的に話そうとするとき、あなたの口を閉じなさい。一言も語ってはならない。」（教会への証 2 巻 82）

- b. いかになわたしたちの言葉は、単になわたしたちが考えていることであり、またわたしたちが何者であるかがあふれ出たものであるかを述べなさい（エレミヤ書 17:9; マタイによる福音書 12:33-37; 14:6-8）。

「会話の傾向は心の宝を明らかにする。安っぽい通俗的な話、へつらいの言葉、笑いを生じさせるために語られた愚かなしゃべりは、サタンの商品である。そしてこのおしゃべりにふけるすべての人は、彼の商品で取引をしているのである。これらのことを聞く人々にもたらされる印象は、ヘロデヤの娘がヘロデの前でおどった時に彼に与えた印象と似ている。これらのすべてのやり取りは天の書物に記録されている。そして最後の大きな日に、それらは罪深い人々の前に真の光のうちに現われるのである。そのとき、すべての人はそれらのうちに、自分たちを広い道と彼らの破滅のために開かれている大いなる門に導き入れる魅惑的で欺瞞的な悪魔の働きを認める。」（牧師への証 84, 85）

3. 心を尽くすことが必要とされている

- a. 現代の真理を信じる信徒たちから、なぜ一貫した言葉を期待するのですか（ヤコブの手紙 3:9, 10）。わたしたちがこの点において失敗するとき、どの警告が与えられていますか。

「もしわたしたちが神はあなたがたのなすこと語ることをすべてご覧になり、聞いておられ、あなたの言葉や行為をみな忠実に記録に取っているということ、またあなたはそれらにみな直面しなければならないという印象を習慣的に心にいただいているならば、そのときあなたが行うこと語ることをすべてのうちに、啓発され目覚めた良心の指示に従おうと努めることであろう。あなたの舌は神の栄光のために用いられ、あなた自身にも他の人々にも祝福の源となるであろう。しかし、もしあなたが今までしてきたように神から分離するなら、あなたの舌が悪の世界であることがわかり、あなたに恐るべき非難をもたらすことがないように気をつけなさい。なぜなら、魂があなたを通して失われることになるからである。」（教会への証 4 巻 244）

- b. わたしたちがもっと一貫性をもって考え、語れるように、どの祈りが助けとなりますか（詩篇 86:11）。

「もし聖書の知識を受ける人が、真理の光に見合うだけの変化を自分の習慣や慣習に見せないとなれば、どうであろうか。霊は肉に対して、そして肉が霊に対して戦っている。そしていずれかが勝たなければならない。もし真理が魂を聖化するなら、罪を憎み、遠ざける。なぜなら、キリストが賓客として受け入れられるからである。しかし、キリストは二心はお受入れにならない。罪とイエスは決して協力関係にはない。」（牧師への証 160）

「いつも見張り、祈りなさい。自らを余すことなく主にお捧げしなさい。そうすればこのお方に仕えることは難しくない。あなたには二心がある。これが光の代わりに闇があなたをとりまいている理由である。憐れみの最後のメッセージが今、出て行っている。それは神の寛容と同情のしるしである。来なさい、とは今与えられている招きである。来なさい、なぜなら万事は今や用意ができているからである。これは憐れみの最後の招きである。次は怒りを引き起こされた神の復讐がおとずれることになる。」（教会への証 2 巻 225）

「今、持ちこたえるのは心を尽くし徹底的に決断した男女である。キリストは何度もくり返しご自分の従う者たちをふるわれ、あるときはついにキリスト教会の基礎を敷くためにわずか 11 名と数名の忠実な女たちが残っただけであった。重荷を担わなければならないときに、身を引く人々がいる。しかし、教会が明々と輝くとき、彼らは熱心さをとらえて、歌い叫び、有頂天になるが、彼らに気をつけなさい。熱情が去ると、わずかに忠実なカレブが数名前に出てきて、ゆるぎない原則を示すのである。これらの人々こそ、味を残した塩である。」（同上 5 巻 130）

4. 純粋な泉からの水

- a. どの原則が、神の恵みによって新たにされた心だけが一貫した行動をもたらすことができることを明らかにしていますか（ヤコブの手紙 3:11, 12）。実際的な例をいくつかあげなさい。

「衣服がきちんと整っていること、住まいが隅々まで清潔であることは、安息日遵守者が厳密に守るべきである。彼らは変わり者として見られ、欠点を探されている。彼らの感化力は聖なるものであるべきである。わたしたちの公言する聖なる真理は決して、それを受ける人を下げることはなく、粗野で荒っぽいのにしたたり、身なりに無頓着で、住居が乱雑になることはない。もし受けた人にだらしない習慣があったとしたら、真理はその人を高め、彼に徹底的な改革をもたらすのである。真理がこの効果を及ぼすのでなければ、各自はその救いの力を感じてはいない。不注意で乱雑な衣服は謙遜のしるしではない。この点である人々は自ら欺かれている。生活、行動、言葉は、個々人が真の謙遜を有しているかを語り、衣服は表される実一致する。純粋な泉は甘い水と苦い水を送り出すことはできない。泉をきよめれば、流れは清くなる。神の家はしばしば安息日遵守者の子どもたちで汚される。彼らの両親は子供たちが家の周りで走り、遊び、語り、人々の注意を引き、彼らの悪い気質が神を礼拝するために集まった人々のいるまさにその集会所の中で表わされることを許す。わたしは聖徒たちの集まりでは、聖なる静寂さが支配しているべきことを示されてきた。しかし、神の民が集まっている家はしばしば完全なバビロン、すなわち混沌と無秩序の場所とされている。これは神にとって不快である。もし親が統治せず、集会所で自分の子どもたちをコントロールできないのであれば、神は彼らが手に負えない子供たちと共に家に残っているほうが彼らのために喜ばれる。彼らは多くの人々を悩ませ、彼らの集會を損なうよりも、集會の損失をこうむったほうがましである。もし親が自分の子どもたちを家庭で制せずに従わせずに放置するならば、彼らは集會で彼らを望むようにふるまわせることはできない。この場合、だれが苦しむべきであろうか。もちろん、親である。彼らはもし他の人々が神に礼拝するために集まるときに自分たちの平安が妨げられないことを望んだときに、自分たちが苦しんでいると感じるべきではない。

ご両親がた、あなたはこの問題において苦しんでいるに違いない。そしてそれによってあなたは自分のなおざりにしてきた義務を認め、果たすように導かれることができる。もしあなたが神の家に自分の子どもたちを連れて行くなれば、彼らは神がご自分の民と会う場所にいるのだということを理解させられるべきである。この面において名目的な教会にはある秩序が、安息日遵守者の間にはない。ご両親がた、あなたに話すべき働きがある。自分の子どもを家庭で従わせなさい。そのとき、あなたは彼らを神の家で治めることができる。」（靈的賜物 2 卷 288, 289）

5. 知恵と知識を授けられること

- a. なぜわたしたちは各自、自分自身の態度を内側から外側へ一心、言葉、行動において一吟味する必要があるのですか（コリント人への第二の手紙 13:5）。

『あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい』（コリント第二 13:5）。気質や性質、考えや言葉、傾向や目的、行為を綿密に反省しなさい。聖書によって霊的健康状態を調べなければ、わたしたちの必要をどうして正しく求めることができるだろうか。』（セレクトド・メッセージ 1巻 89）

「わが兄弟姉妹がた、あなたは言葉というタラントをどのように用いているだろうか。あなたは自分の舌を制し、それがいつも啓発された良心と聖なる愛情の指図に従うよう学んできただろうか。あなたの会話は軽率さ、誇り、悪意、欺き、不純がないものだろうか。あなたは神の前に傷のないものだろうか。言葉は説得する力を発揮する。サタンはもし可能であれば、舌を自分の奉仕のために活発に保っておく。わたしたちは自分では制せられない肢体を支配することができない。神の恵みがわたしたちの唯一の希望である。」（教会への証 5巻 175）

「聖霊の導きの下に無条件に自らを置く人は、自分の思いが広がり発達するのを見出す。彼は神の奉仕において、品性の片側だけを発達させるような偏りも不足もない、均整がとれて欠けることのない結果をもたらす教育を得る。揺れ動く意志と力ない品性に表された弱さは克服され、継続的な献身と敬神はその人をキリストとの非常に密接な関係に入れるのでキリストの思いを持つようになる。彼はキリストと一つであり、原則の健全さと強さを持っている。彼の知覚力は明白で、彼は神からくる知恵を表すのである。」（セレクトド・メッセージ 1巻 338）

個人的な復習問題

1. 毒のある会話に直面するとき、わたしはどのように応じるべきですか。
2. 人々が何かを語るとき、それは実際に彼らについて何を示唆していますか。
3. 人間の思いの中に激しく続く戦いを説明しなさい。またどのようにそれに勝つことができますか。
4. わたしのどの習慣や傾向が内にある汚れた泉を反映しているかもしれませんか。
5. わたしの話し方はどのように、またなぜ変えられるべきなのですか。

知恵の柔和

暗唱聖句：「あなたがたのうちで、知恵があり物わがりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔和な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。」(ヤコブの手紙 3:13)

「わたしたちの救い主はその純潔さと高められた道徳によって人々を畏敬の念を起こさせる一方で、このお方の愛と優しい温情は、彼らに熱心さを吹き込む。最も貧しい者、つつましい者がおそれなくこのお方に近づいたのであった。」(福音宣伝者 261)

推奨文献： 教会への証 5巻 167-177

日曜日

11月24日

1. 歪められた「識別力」

a. どの深刻な悪を断固として警戒しなければなりませんか。それはなぜですか (ヤコブの手紙 3:14, 15)。

「敵の示唆に心を開いて、邪推を取り入れ、嫉妬を心にいだき、しばしばこの悪い心の動きを先見の明、識別力、あるいは罪を見破り、他者の悪い動機を探る洞察力であると曲解する。彼は、尊い賜物が自分に与えられていると考え、一致しなければならない兄弟たちからへだたりを置く。彼は裁きの座に上り、彼自身はあたかも誘惑を超越しているかのように、誤っていると思われる者に対して心を閉ざす。イエスは彼から離れ、彼を彼自身が燃やしたいまつの中で歩むままにさせられる。

あなたがたのうちのだれも、この精神は悪事を行う者を正しく裁き、真理を擁護して立つために必要不可欠なものであると宣言し、真理に逆らって誇ってはならない。多くの者はこのような知恵を称賛するが、それは非常に欺瞞的であり有害である。それは上から来たものではなく、生まれ変わっていない心の実である。その創始者はサタン自身である。他のものを非難する者は、自分に洞察力があると誇ってはならない。なぜなら、そうすることによって、彼はサタンの属性に義の衣を着せることになるからである。兄弟たちよ、あなたがたを汚すこれらの事がらから魂の宮をきよめなさい。なぜなら、それらは苦い根だからである。」(SDA パイブル・コメント]7巻 936, 937)

2. 有毒な言動

a. 妬みと紛争の避けられない結果を述べなさい(ヤコブの手紙 3:16)。

「兄弟たちの悪口を言うことによって、不親切な思いをかき立てる施設や教会の中のひとり、人の心の最悪の感情をかきたて、彼と交際するすべての人の中で働く悪意のパン種をまき散らすかもしれない。このようにして、あらゆる義の敵が勝利を得、彼の働きの結果は救い主の最後の祈り、すなわちご自身が御父と一つであるように、弟子たちが一つになるようにと嘆願された祈りを無効にすることである。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 937)

b. わたしたちの魂の敵に扇動された人間の傾向とは対照的に、わたしたちは他の人々とのように交流すべきですか(ヨハネによる福音書 13:34)。

「あなたは人々の立場や働きを理解していないときに、個人個人に判断をくだし、彼らのやり方や様式にコメントをする。あなたは自分の見地から物事を見て、その後あらゆる方面から物事を公平に見ることなく、彼らのとった方針に疑義を申し立てたり、非難をする用意ができています。あなたには他人の義務に関する知識はないのであり、彼らの行動に対して責任があると感じるべきではない。かえって、あなたの義務を行い、他の人々は主に任せなさい。あなたの精神を平安に保ちなさい。思いの平安と落ち着きを維持し、感謝していなさい。…」

あなたは極端に敏感すぎる。だから、もし一言でもあなたがとってきた一連の行動と反対の道に有利なことが一言でも語られると、あなたは傷つくのである。あなたは自分が責められたと思い、自分を擁護し、自分の命を救わなければならないと感じる。そして自分の命を救おうとするあなたの熱心な努力のうちに、あなたはその命を失うのである。あなたには自己に死ぬために、そして寛容と忍耐の精神を培うためになすべき働きがある。」(教会への証 2 巻 424)

「互いに批判し、非難する人々は神の戒めを破っているのであり、神にとって侮辱である。彼らは神を愛してもいなければ、自分の同胞を愛してもいない。兄弟姉妹がた、非難と疑いとつぶやきというごみを取りのけようではないか。そしてあなたがたの神経を外側ですり減らしてはならない。ある人々はあまりにも敏感で、共に筋を通して語ることができない。神の律法を守るという意味が何かに関して、あなたが律法を守っているのか破っているのかに関して、非常に敏感になりなさい。神がわたしたちに敏感になるよう望んでおられるのは、このことについてである。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 937)

3. 失望を取り扱う

a. 神の律法を愛する人々について、何と記されていますか (詩篇 119:165)。

「あなたは正しく用いられていない、不当に扱われている、だれかがあなたを圧迫、あるいは傷つけようとしているという考えを克服しなさい。あなたは偽りの目を通して見ている。サタンがあなたに事態についてこれらのゆがんだ見解をとるように導いている。」(教会への証 2 巻 424)

「世は罪を愛し、義を憎む。これがイエスに対する世の敵意の原因であった。イエスの限りない愛をこぼむ者はみなキリスト教を一つの邪魔な要素と考える。キリストの光が、彼らの罪をおおっている暗黒をはらいのけ、改革の必要が明らかにされる。聖霊の感化に服する人は、自己との戦いを始めるが、罪に執着する人は、真理とその代表者たちに向かって戦いをいどむ。

こうして衝突が生じ、キリストに従う者たちは、民を悩ます者として非難される。しかし彼らに世の敵意が向けられるのは、彼らが神とまじわっているからである。彼らはキリストへの非難を負っているのである。彼らは聖徒たちが通った道を歩いているのである。彼らは悲しみをもってではなく、よろこびをもって、迫害に応ずべきである。激しい試練の一つ一つは、彼らを洗練するための神の手段である。その一つ一つは、彼らを神の共労者として彼らの働きにふさわしい者とする。一つ一つの戦いは、義のための大きな戦いの中にそれぞれの立場を占めていて、それは、彼らの最後の勝利によるこびをまし加える。このことを念頭におくとき、彼らの信仰と忍耐の試みは、恐れて避けるよりも、むしろよろこんで受け入れられるであろう。」(各時代の希望中巻 10.11)

b. 本当に不公平に取り扱われたときでさえ、わたしたちは何を覚えているべきですか (マタイによる福音書 5:11, 12, 41; ペテロの第一の手紙 4:12-15)。

「教会の神聖な頭であられるお方、最も強い勝利者は、ご自分に従う者たちにご自分の生涯、ご自分の苦勞、ご自分の自己否定、ご自分の苦闘と苦しみを指し示し、軽蔑を通して、また拒絶、あざけり、嘲笑、侮辱、あざ笑い、偽りを通してカルバリーの道を上り、十字架の場面までを指し示される。こうして彼らが高い賞与を目指して勝利者の報いに向かって押し進むために励まされるためである。勝利は信仰と従順を通して保証されている。わたしたちは自分自身の個々人の事情にキリストのみ言葉をあてはめよう。」(レビュー・アンド・ヘルト 1888 年 7 月 24 日)

4. 上よりの知恵

- a. 天から生まれた知恵の最初の資質は何ですか。またなぜそれはわたしたちにとって重要不可欠なのですか(ヤコブの手紙 3:17 (上旬); マタイによる福音書 5:8)。

「神の都には汚れたものは何一つはいれない。その住民となるすべてのものは、この地上で心の清いものになっていなくてはならない。イエスに学んでいる者の中には、不注意なふるまいや、不適當な言葉や、下品な思いに対する嫌悪が徐々に強まってくる。キリストが心に住まわれる時、思いと行為が純潔になり、洗練されるのである。

しかし『心の清い人たちは、さいわいである』とのイエスの言葉は、もっと深い意味をもっている。単に世が純潔と考える意味での純潔—肉体的なものにとらわれず、情欲に汚れていない—を言うのではなく、心のかくれた目的や動機において真実であり、誇りや利己主義から解放され、謙そんで、無我で、幼な子のような者であることを意味する。」(祝福の山 30, 31)

- b. キリストのために準備する際、どこに焦点をあてなければならないかを説明しなさい(ヨハネの第一の手紙 3:2, 3)。

「日々その経験の中に、神の摂理の現れの中に、わたしたちは主のいつくしみとあわれみをはっきり知る。わたしたちはみ子の品性の中に神を認めるのである。聖霊は神と、神がつかわされたおかたに関する真理を人間が理解し、心に受け入れられるようにされるのである。心の清い者は、自分たちの贖い主として新しい関係をもって神を見る。彼らは主の品性の純潔と美しさを見ると同時に、主のみかたちを反映することを切望する。彼らは悔い改めたむすこを抱きかかえようとひたすら待っている父として神を見る。そして彼らの心は言いあらわせない喜びと輝く栄光に満たされるのである。

心の清いものは、その偉大なみ手のわざに、また宇宙を構成している美しい事物の中に創造主を見る。神の書かれたみことばの中に、神のあわれみ、いつくしみ、めぐみの啓示をはっきりと読むのである。知恵のある者や賢い者には隠されている真理の数々が、幼な子にあらわされるのである。この世の知者にはわからない真理の美と尊さが、神のみ心を知り行なおうと、幼な子のように信頼して望むものに、たえず示されていく。わたしたちは、自分が神の性質にあずかる者となることによって、真理を見分けるのである。

心の清いものは、神が彼らにこの世で生を与えておられる間、神が目の前におられるかのように生活する。」(同上 32, 33)

5. もっと重要不可欠な資質

- a. 純潔の後に、天来の知恵、すなわちそれがなければわたしたちの感化力が損なわれてしまう次の五つの資質をあげなさい（ヤコブの手紙 3:17（中句））。

「あなたには親切、礼儀、柔和、そしてキリストの心の低さが必要である。あなたには神に対して聖化されるなら最も高い奉仕のために完全になれる数多くの価値ある資質がある。あなたは厳しさと過酷さではなく、神性と礼儀をもって自分の兄弟たちに近づく必要性を感じるべきである。あなたは彼らを鋭く見下す自分の精神によってどれほど害をなしているかを自覚していない。あなたの会議にいる牧師たちは、あなたが彼らに敬意と親切と信頼と愛を与えたなら得たはずの勇気を失い、意気消沈し始めている。あなたの扱い方によって、あなたは兄弟たちの心を自分から離れさせている。だから、あなたの勧告は彼らに対してよい感化力をあまり及ぼさないのである。」（クリスチャンのリーダーシップ 6, 7）

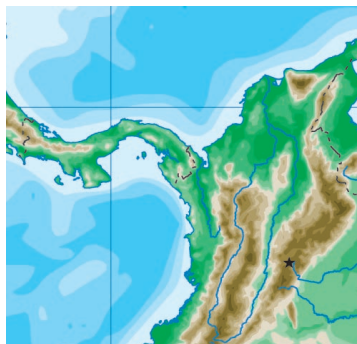
「もしあなたの期待が実現しないと、失望し、落ち着きをなくし、変化を期待するようになる危険性がある。あなたは非難し、制圧する立場を避けなければならない。非難の精神の香りがする者はみな避けなさい。長い経験を持つ神の僕のうちになだれであってもこの精神が見いだされることを神はお喜びにならない。もし、謙遜と内なる飾りを身につけているならば、熱意と熱心さを表すことは青年にとって似つかわしい。しかしほんの数年の経験しか持たない青年が向こう見ずな熱意と非難する精神を表すとき、それはもっとも見苦しく明らかに胸を悪くする。これほどその人の感化力を破壊するものは他にない。穏やかさ、親切、寛容、忍耐、たやすく苛立たず、すべてを忍び、すべてを望み、すべてを耐えること—これらは愛という尊い木に成長する実であり、天より成長する。この木はもし栄養を受けるならば、常緑樹であることがわかる。その枝は枯れることなく、その葉はしぼむことがない。それは不朽であり、永遠であり、絶えず天の露で潤されるのである。」（教会への証 2 卷 134, 135）

個人的な復習問題

1. どのような状況で、わたしは動機を裁き、それを識別力と呼ぶよう誘惑されますか。
2. 他人を批判する習慣は、どのように神の戒めを破りますか。
3. 有毒な言動がわたしに対して投げつけられるとき、わたしは何を覚えているべきですか。
4. 「心の清い」とはどういう意味ですか。
5. どのようにわたしはもっと「温順」となり、近づきやすいものになりますか。

第一安息日献金 コロンビア・ユニオン本部のために

コロンビアは南米の国で、現在の人口は 5,100 万人を超えています。産業には石油、製造、繊維、建設、農業、銀行、サービスなどがあります。人口の 73% がカトリック教徒、9.1% が非キリスト教を信仰、6.9% が福音派、6.5% が無宗教、2.9% がプロテスタント、0.9% が無神論者としています。この状況は、ここの神の教会にとって大きな課題です。



1960 年代、内戦により国が道徳的荒廃に苦しんでいたころ、第三天使のメッセージがコロンビアに届きました。混乱の中、教会が正式に登録された 1971 年までに教会員数は約 100 名に達しました。当時は働く人は少数でしたが、愛する大義のためにすべてを捧げる勇気と熱意に欠けることはありませんでした。自国と安楽な生活を離れ、コロンビアでの活動を支援するために喜びをもってやって来た牧師や聖職者たちの支援に、私たちはいつも感謝しています。彼らは、この地でメッセージを広めるために心から献身しています。

神の恵みにより、2006 年にコロンビアユニオンが組織され、現在では 3 つのフィールドがあります。私たちのユニオン本部は、サンタンデルのバルボサ市の農村地域にあります。

私たちの兄弟たちや、真理への関心が高まっている人々に奉仕するために、私たちは現在存在する施設を緊急に拡張する必要があると考えています。現在、私たちの事務所、宣教師学校、マルチメディア部門が運営されている農場があります。ここでは教会員やメッセージに新たに興味を持った求道者のために、会議、セミナー、精神的な静養も開催しています。

この土地には、すでにインフラの一部が建設されており、現在、追加の施設の建設が進行中ですが、完成させるためのリソースが不足しています。そのため、私たちは世界中の家族教会の寛大さを求めています。皆様の寛大な献金のおかげで、私たちは主の知識に飢えている魂に奉仕するためのより適切な施設を持つことができます。

皆様の献金に深く感謝いたします。皆様の寄付と献金がどれほどの善をもたらしたかは、永遠だけが証明できるでしょう。

コロンビア・ユニオンから皆さんの兄弟姉妹より

わたしたちの態度の問題を克服する

暗唱聖句：「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたから逃げ去るであろう。」（ヤコブの手紙 4:7）

「純潔で聖化する真理を愛する愛、愛する救い主を愛する愛は、勝利の労苦を軽くする。」（教会への証 4 巻 38）

推奨文献： 教会への証 3 巻 39-47

日曜日

12月1日

1. 無我の公平

a. 天来の知恵のリストにある最後の二つの資質をあげなさい（ヤコブの手紙 3:17（下旬））。

「使徒ユダは次のように述べている。『違いをいдаく人々があれば、彼らをあわれみ』（ユダ 22 節欽定訳）。この違いはえこひいきの精神のうちに働かされるべきではない。『もしあなたがわたしをひいきにするなら、わたしもあなたにひいきしましょう』を示唆する精神に顔を向けてはならない。これは聖化されていない世俗的な方策であり、神にとって不快である。それは利益のために恩寵と敬愛を払うことである。ある人々に偏愛を示し、彼らを通して利点を得ようと期待することである。それは放縱によって彼らの善意を求め、わたしたちが自分たちと全く同様に価値のある他の人々より大きな評価を得ようとするものである。』（教会への証 4 巻 221, 222）

「神は諸教会の中でなされる怠惰な働きをお喜びにならない。このお方はご自分の管理者が譴責と矯正を与えることにおいて真実で忠実であることを期待なさる。彼らは自分自身の考えや衝動によってではなく、神がご自分のみ言葉の中にお与えになった規則に従って悪を追い出すべきである。過酷な手段を用いてはならない。不公平で性急で衝動的な働きがなされてはならない。教会を道徳的な汚れから清める努力は、神の方法によってなされなければならない。偏愛も偽善もあってはならない。えこひいき、すなわちだれかの罪は他の人の罪よりも少ないとみなされるようなことがあってはならない。ああ、わたしたちはどれほど聖霊のバプテスマを必要としていることであろう。そうであれば、いつもキリストの思いをもって、親切、思いやり、同情をもって働こう。罪に対しては完全な憎しみをもって憎む一方、罪人への愛を示そう。」（エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 144）

2. 正しくキリストを表す

- a. どのようにしてのみ、わたしたちの言葉において、キリストを正しく表すことができますか(ヤコブの手紙 3:18)。

「唇でキリストを告白しながら、働きにおいてこのお方を否定することは可能である。生活に表される御霊の実はこのお方を告白する。もしわたしたちがキリストのためにすべてを捨てたならば、わたしたちの生活はへりくだったものとなり、会話は天来のものとなり、ふるまいは傷のないものとなる。魂における真理の力強い純潔にする感化力と生活において例証されるキリストのご品性がこのお方を告白する。もし永遠の命の言葉がわたしたちの心にまかれるならば、実は義と平安である。わたしたちは安逸の愛や自己愛にふけることによって、しゃれや冗談を言うことによって、世の誉れを求めることによって、自分の生活においてキリストを否定するかもしれない。世に迎合することによって、外見においてこのお方を否定するかもしれない。誇らし気な顔や高価な衣服によって、このお方を否定するかもしれない。ただ絶えず見張り、辛抱強く、ほとんど絶えず祈ることによってのみ、わたしたちの生活にキリストの品性、つまり真理の聖化する感化力を表すことができるのである。多くの人々は短気で感情的な精神によって自分の家族からキリストを追い出している。そのような人にはこの点において克服すべきことがある。」(教会への証 1巻 303, 304)

- b. 日常生活にまき散らされているどの一般的な人間の傾向は、本当に克服される必要がありますか。またなぜですか(ヤコブの手紙 4:1-3)。

「自分の状況や自分たちの義務がつつましく重要でないと思える場所におかれた環境に満足しないのは悲しいことである。個人的でつつましい義務はあなたにとっていやなものである。あなたは落ち着きがなく不安で不満である。これらはみな利己心からわき出ている。…

いつも愚痴を言い、文句を言っているこれらの自称クリスチャン、幸福と快活な顔は罪だと考えているかのような人々は、本物の宗教というものを持っていない。」(同上 3巻 334)

「もしおいしいからと言って、わたしがときどきに二倍の量を食べるとすれば、自分の暴飲暴食は考慮せずに、いかにわたしは神の前に頭を垂れて、書きものの働きにおいてわたしを助けて下さいと求めることができるであろうか。わたしは自分の胃に負わせた不当な重荷を何とかしてくださいと神に頼めるであろうか。そのようなことは、神を汚すことである。それはわたしの欲の上で焼きつくしてくださいと求めるようなものである。今わたしは正しいと思う分だけを食する。それから、わたしは神がわたしに与えて下さった働きを実行する力を与えて下さいと求めることができる。」(同上 373, 374)

「キリストの宗教が心のうちを支配しているとき、良心が承認し、平和と幸福が治める。困惑と問題が取り囲むかもしれないが、なお魂には光がある。」(同上 4巻 47)

3. 一般的なわなを逃れる

- a. どの鍵となる原則が、単なる名前だけの表面的な信仰とは対照的に、キリストとの本当のつながりにおいて重要不可欠ですか（ヤコブの手紙 4:4）。

「半々でいることによって自分たちのクリスチャン生活を始める人々は、初めの意図が何であろうと、ついに敵の側に協力していることを見出すであろう。そして背信者、すなわち神のみ事業に対する裏切者となることは、死よりも深刻なことである。なぜなら、それは永遠の命の損失を意味するからである。

二心の男女はサタンの最高の同盟者である。彼らが自分たちについてどんなに好ましい意見を持っていたとしても、彼らは偽り者である。神と真理に忠実なすべての者は、正しいことが正しいがゆえに堅く立たなければならない。献身していない人々とくびきを共にしながら、真理に対して忠誠を尽くすことは、単純に不可能である。わたしたちは自らに仕えている人々、世俗的な計画に従って働く人々と結合するなら、必ず天の勧告者とのつながりをゆるめることになる。わたしたちは敵のわなから自ら回復するかもしれないが、打たれ、傷ついて、わたしたちの経験は萎縮するのである。」（ビュー・アンド・ヘルト 1898年4月19日）

- b. なぜわたしたちは妬みの傾向を一つ一つしっかりと根こそぎにしなければならないのですか（ヤコブの手紙 4:5, 6）。

「サウルの性格の一大欠陥は、賞賛を愛する心であった。この特質が、彼の行動と思想を支配していた。何事においても、賞賛と自己賞揚を欲する気持ちがあらわれていた。彼の善悪の標準は、人々の賞賛という低い標準であった。まず第一に神を喜ばせようとせず、人間を喜ばせるために生活する人は安全ではない。」（人類のあけぼの下巻 325）

「サウルを悲惨に陥れ、彼の王国の国民のひとりの生命を危険にさらしたのは、ねたみであった。人の心のこの邪悪な特質が、この世界でなんと数多くの不幸をもたらしたことであろう。アベルの行為は正しく、神に喜ばれた。しかし、カインの行為は邪悪で、主の祝福を受けられなかった。そのため、カインは弟のアベルを憎んだ。それと同じ憎悪をサウルはいだいた。ねたみは、誇りから生じる。もし心にねたみをいだけば、それは憎悪となり、ついには、ふくしゅう、殺人を犯させることになる。」（同上 327）

「神への服従、愛、感謝は、たとえどんなに曇っているように見える日でも、心の中に日光を保つ。自己否定とキリストの十字架があなたの前にある。あなたは十字架を掲げるだろうか？」（教会への証 4巻 47）

4. 焦点と従順

- a. どの重要不可欠な要素が、わたしたちに本物で永続的なキリストにある勝利を与えますか（ヤコブの手紙 4:7）。

「ある人々は贖罪の必要を感じ、この必要を認めて、心の変化を切望して、苦闘が始まる。自分自身の意志を捨てること、もしかしたら彼らの選りすぐりの愛情や探究の対象を捨てることは努力を要求し、多くの人々はためらい、よろめき、踵（きびす）を返すであろう。それでありながら、真に改心したすべての魂は、この闘いを戦わなければならない。わたしたちは内外の誘惑に対して戦わなければならない。自己に対する勝利を得、愛情と欲を十字架につけなければならない。そのとき、魂とキリストとの結合が始まる。乾いて一見命がないように見える枝が、生きた木に接されるように、わたしたちもまことのぶどうの木に生ける枝となることができる。そしてキリストが結ばれた実を、このお方に従うすべての人も結ぶようになる。この結合が形成された後、それは継続的で熱心な骨折りの努力によってのみ維持することができる。キリストはこの神聖な結びつきを維持し、守るためにご自分の力を働かせてくださる。そしてより頼む無力な罪人は、倦むことのない勢力をもって自分の分を果たさなければならない。さもないとサタンは残酷でずるがしこい力によってその人をキリストから引き離すであろう。

すべてのクリスチャンは絶えず防備して立ち、サタンが入り口を見つけるかもしれない魂のすべての道を見張っていなければならない。彼は神の助けを求めて祈ると同時に断固として罪への一つ一つの傾向に抵抗しなければならない。勇気によって、信仰によって、辛抱強い労苦によって、彼は勝利することができる。しかし、彼はいつも勝利を得るためには、キリストが彼のうちに、また彼がキリストのうちに宿らなければならないことを覚えていなさい。」（教会への証 5 巻 47）

- b. パウロはどのようにクリスチャン生活における霊的な活力に関して、ヤコブの説明をくり返していますか（ローマ人への手紙 6:6-11）。

「世俗的な思い、利己心、貪欲は、神の民の霊性と命を食い尽くしてきた。」（同上 1 巻 141）

「わたしたちははるかにもっと固い信仰ともっと熱い献身を必要としている。自己に死に、思いと心にわたしたちの救い主をあがめる愛をいただいているべきである。わたしたちが心を尽くして主を求めるとき、このお方を見出し、わたしたちの心はこのお方の愛で明々と輝く。自己は沈み込んで意味のないものとなり、イエスが魂にとってすべてのすべてとなる。…

わたしたちは神に近づかなければならない。このお方と共に働く共労者とならなければならない。さもなければ弱さと過ちがわたしたちの引き受けるすべてのことに見られるようになるであろう。」（同上 6 巻 51）

5. まじめな祈りのために立ち止まる

- a. わたし自身の悪の傾向に対する戦いにおいて、わたしたち個人個人に向かって、どの保証と訴えが鳴り響くべきですか（コロサイ人への手紙 3:1-3; ヤコブの手紙 4:8, 9）。

「世が愛情を得ている間は、どんな人でも真理を識別することは不可能である。世が彼らと神の間にあり、視界を曇らせ、あまりにも感覚を鈍らせているため聖なる事からを識別するのが不可能になっている。神はそのような人に次のように呼びかけている、『罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。苦しめ、悲しめ、泣け。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ。』自分たちの手に世という汚れでしみをつけている人々は、自らそのしみを清めるように要求されている。自分たちが世に仕えながら、なお神を愛することができると思う人々は、二心の者である。しかし、彼らは神と富に兼ね仕えることはできない。彼らは二つの思いを持った人であり、世を愛するものであり、自分たちの神への義務に関する感覚を全く失っている。それでいながら、キリストに従う者だと公言している。彼らはあちら側でもこちら側でもない。彼らは自分たちの手を清め、自分たちの心を純粋な真理の諸原則に従うことによって精練しないかぎり、両方の世界を失うことになる。」（教会への証 1 巻 530, 531）

- b. わたしたちはへりくだりのうちに神のみ前に頭を垂れるとき、何が起こりますか（詩篇 34:18; ペテロの第一の手紙 5:6, 7）。

「もしあなたが神のみ前に自らをへりくだらせ、自分の悪を告白し、心の完全な決意をもってこのお方に立ちかえるなら、あなたがたはまだ幸せな家族になれる。もしあなたがこうせず、自分自身の道を選ぶなら、あなたの幸福は終わるのである。」（同上 2 巻 304）

個人的な復習問題

1. わたしの内なる動機を深くさぐるとき、どの分野において、わたしは偽善者かもしれませんか。
2. わたしたちが自分の言葉によってあまりにもしばしばキリストを誤り伝えるいくつかの方法をあげなさい。
3. どの意味において、ねたみは深刻な信仰の否定であり、神への侮辱なのですか。
4. なぜわたしはキリストのうちに生きるために、自己に対して死んでいる必要がありますか。
5. この教科は、どのようにわたしが克服すべきいくつかの本当の問題を要約していますか。

より謙遜な見解を採用する

暗唱聖句：「主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主はあなたがたを高くして下さるであろう。」(ヤコブの手紙 4:10)

「わたしたちが従順という謙遜な道に従うとき、他の人々がその中に歩むために明るい天に向かう道筋を残す。神の事がらに深い経験を持つことがわたしたちの特権である。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1890 年 3 月 17 日)

推奨文献： 教会への証 2 巻 41-44, 678-686

日曜日

12月8日

1. 偽りの識別力を避ける

- a. 自分の兄弟を愛すると公言するすべての人は、はなはだしく有害などの習慣を捨て去る必要がありますか (ヤコブの手紙 4:11, 12)。

「人のことを悪く言ったり、他の人の動機や行為をさばくことは、小さいことであると思ってはならない。」(人類のあけぼの上巻 462)

「真の道徳的価値は、悪を考え語ることによって、他人の価値を下げることによって、自らの場所を求めることをしない。あらゆる妬み、嫉妬、悪口は、あらゆる不信と共に神の子らから捨て去らなければならない。」(わたしたちの高い召し 234)

「すべての教会で、悪口と批判的な精神を、教会における最大の悪を生み出す罪のうちにあるものとして捨て去るために真剣な努力を払うべきである。厳しさとあらゆる捜しはサタンのわざとして譴責されなければならない。相互の愛と信頼は教会員の中で奨励され、強められなければならない。すべての人は、神の恐れのうち互いへの愛をもって、うわさ話や非難に対して耳を閉ざそう。話す人を神のみ言葉の教えに向けさせよう。彼に聖書に従うように命じ、そのつぶやきを、その人が過ちに陥っていると考えている人に直接伝えるよう命じなさい。この一致した行動は光の洪水を教会の中にもたらし、悪の洪水に対して戸を閉ざすようになる。こうして神に栄光が帰され、多くの魂が救われるのである。」(教会への証 5 巻 609, 610)

2. 真剣に光を受け入れる

- a. 計画を立てるとき、何を心にとめている必要がありますか (詩篇 16:8; ヤコブの手紙 4:10, 13-16)。

「毎朝、神に自己をささげ、これを最初の務めとして、次のように祈ろう。『主よ、しもべを全くあなたのものとしてお受け入れください。私のすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、しもべを今日もご用のためにお用いください。どうか、わたしと共にあって、すべてのことをあなたにあってなさせてください』と。これは毎日のことである。毎朝、その日一日、神に献身して、すべての計画を彼にお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのである。こうして、日ごとに生涯を神のみ手にゆだねるとき、しだいにあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのである。」(キリストへの道 93, 94)

- b. わたしたちが各自、人生のあらゆる局面において与えられた天来の光に対して持っている厳粛な責任と義務を説明しなさい (ヤコブの手紙 4:17; マタイによる福音書 12:31, 32)。

「人々を盲目にし、心をかたくなにするのは神ではない。神は彼らのあやまちを直し、彼らを安全な道にみちびくために光をお送りになる。目がめくらになり、心がかたくなになるのは、この光をこぼむからである。この過程は徐々にほとんど気がつかない場合が多い。光は、神のみことばを通し、神のしもべたちを通し、あるいはみたまの直接の働きによって魂にのぞむ。だが一すじの光が無視されると、霊的知覚力が部分的に麻痺し、次に光があらわされたとき、それは前ほどはつきりみとめられなくなる。こうして暗さが増し、ついには魂に夜がおとずれる。」(各時代の希望中巻 39)

「すなわち天来の光を疑ったり批判したりすることは危険である。不注意で不敬な批判をする習慣は品性に作用し、不敬と不信の念を助長する。この習慣をほしいままにしていた多くの人々が、危険を意識しないで続けているうちに、ついには聖霊の働きを批判したりこぼんだりするようになった。」(同上 40)

「健康の主題について語られると、人々はよく、『わたしたちは実践している以上に多くのことを知っている』と言う。彼らは自分たちの身体的な健康に関してすべての光線に責任があること、また自分たちのすべての習慣は神の点検の前にあらわであることを悟っていない。」(教会への証 6巻 372)

3. 過大評価されている富

- a. 他の人々より物質的な財産に恵まれている人々を取り囲む誘惑について、どのような警告が与えられていますか（ヤコブの手紙 5:1）。

「牧師は人にへつらったり、偏り見たりすべきではない。これまでいつも、そしてこれからも、この点において過ちを犯す大きな危険がある。すなわち、裕福な人に少し差をつけて、例えば言葉によってではなくても、彼らに特別な注意を払ってへつらったりする危険である。利益のために『人にへつらう者』になる危険性がある。しかし、こうすることによって永遠の利益が危険にさらされる。牧師はある裕福な人に気に入られるかもしれない。そして彼はその牧師に対して非常に気前が良いかもしれない。これがその牧師を満足させ、彼はその見返りに、寄付した者の慈善を惜しみなくほめたたえる。彼の名は印刷物に登場して高められるかもしれない。それでいながら、その気前の良く寄付した者はまったく自分に与えられる信用に値しないかもしれない。彼の気前良さは、自分の資金を使って善をなし、神のみ事業を前進させるという深く生きた原則から生じたものではなく、何らかの利己的な動機、気前が良いと思われたいという願望からであった。彼は衝動から与えたかもしれないが、彼の気前良さには原則という深さがない。彼は心をかき立てる真理を聞くことによって感動し、一時は財布のひもが緩んだかもしれない。しかし、最終的に彼の気前良さには、それ以上の深い動機がない。彼は発作的に捧げる。彼の財布は発作的に開き、またまったく同じように発作的にしっかりと閉じられる。彼はまったく賞賛に値しない。なぜなら、彼はしみつたれた人という言葉が意味する通りの者であり、財布もすべて徹底的に改心しないかぎり、厳しい告発を聞くことになる。『あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい。あなたがたの富は朽ち果て、着物はむしばまれ』る。そのような人は恐ろしい自己欺瞞からついには目覚めることになる。彼らの発作的な気前良さを称賛した人々は、サタンが彼らを欺くのを助けて、彼らが惜しみないことと自己犠牲の最初の諸原則を知らないときに、彼らが本当に気前が良く、本当に犠牲を払ったと思わせたのである。」（教会への証 1 巻 475, 476）

- b. 金銭に関して、わたしたちは自分たちの優先事項をどのように生きさなければなりませんか（箴言 11:4）。

「慈善の心は、働かせることによって、絶えず拡張し、強められ、ついに魂の中の原則となり支配するようになる。利己心と貪欲に心の中でわずかでも場所を与えることは、霊性にとって非常に危険である。」（同上 3 巻 548, 549）

4. 偶像を捨てる

a. 人が富を得る理由は、しばしば何ですか(ヤコブの手紙 5:2 (上句))。

「この世代においては、利益に対する欲望が人々の心を夢中にしている。富を得るために、しばしば不正が行われる。わずかの賃銀のために苦役を強いられ、貧しさと戦いながらも、生活の最低の必需品すら得られずにいる者が多くいるのである。彼らは生活がよくなる見通しもなく、苦勞しては奪い去られて重荷にあえぐのである。彼らは圧迫に悩み疲れて、どこに援助を求めてよいかわからない。そしてこれはみな、金持ちがぜいたくな生活を支えるためであり、あるいは貯蔵欲をほしいままにするためである。

金を愛し、虚飾を愛することが、この世界を盗人と強盗の巣にしてしまった。聖書はキリスト再臨直前の貪欲と圧迫を描いている。」(国と指導者下巻 251)

b. 今日、世の多くの動機となっているのは何ですか。またそれによって動かされている人々に、どの訴えがなされる必要がありますか(テモテへの第一の手紙 6:9, 10; 申命記 8:18, 19)。

「聖書は人が正直な方法で富を得たのであれば、金持であることを罪としていない。金銭ではなく、金銭を愛する心がすべての悪の根源である。財産を得る力を人間に与えられたのは神であって、神の家司として行動し、自己の富を無我の精神をもって使用する人の手によって、富はその所有者にも、また社会にも祝福となる。しかし、多くの者はこの世の宝に夢中になり、神の要求と他に困っている人がいることに無感覚になっている。自分の富は自分の誇のために用いるべきものだときめ、つぎつぎに家を建て、土地をふやし、贅沢な物で家を満たすのである。しかも、その周囲には悲惨、犯罪、疾病、そして死に遭遇している人がたくさんいる。このように自己奉仕に生きる者は神の性格ではなく、悪魔の性質を自らの中に発達させているのである。

こういう人が福音を必要としており、その目は物質のむなしさから離れ、永遠の富の尊さをながめる方に向けられなければならない。彼らは与えることの喜びと神と共に働く者の幸福を学ばなければならない……

特に上流階級の人々のために働くに適している人がいる。こういう人は彼らの心に触れる方法を知るため、またいい加減なまじわりではなく、個人的努力と生きた信仰によって魂が必要としているもの呼び起し、イエスの中にある真理の知識にまで導くために神に知恵を求むべきである。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 190, 191)

5. 物質主義を越えて見る

a. 不正な手段で得た利益の結果を述べなさい(ヤコブの手紙 5:2 (下句))。

「不正な取扱いによって、取引におけるやり過ぎによって、寡婦や孤児をしえたげることによって、あるいは富を貯蔵し、困窮している人々の必要を無視することによって、富を得ることは、ついに靈感を受けた使徒によって描写された正当な報いをもたらすことになる。」(教会への証 2 巻 682)

b. 富に関する神の特別なメッセージは何ですか(テモテへの第一の手紙 6:17-19)。

「真のキリストの弟子の中でもっとも慎ましくもっとも貧しい人、そして良い行いに富んでいる人は、自分の大きな富を誇っている人よりも祝福されており、神の御目にはもっと尊い。彼らは天の宮廷では、神に対して富んでいない最も高められた諸王や諸貴族よりも、もっと誉れを受けている。…

財産を貯蔵したり、あるいは土地に大きな投資をしている人々は、自分の家族から生活の快適さをうばいながら、狂人のようにふるまっている。彼らは神が豊かに自分の家族に与えて下さっているものを彼らが楽しむことを許さない。彼らには大きな財産があるにもかかわらず、彼らの家族はしばしばさらに資金をため込み貯蓄するために、彼らの体力をはるかに越えた労働を強いられる。脳、骨、筋肉が、蓄積するために酷使され、宗教とクリスチャンの義務がなおざりにされている。仕事、仕事、仕事、朝から晩まで、野心である。

多くの人々は神のみ旨を学ぶために、またこのお方が自分たちに要求しておられることを理解するために真剣な願いを表さない。ある人々は真理を他の人々に教えようと試みるが、自らは神のみ言葉に従わない。神のみ事業にそのような教師が増えるほど、ますます繁栄は減じるのである。」(同上 682, 683)

個人的な復習問題

1. わたしが他の人の欠点を考え続けているとき、何をしていることですか。
2. わたしたちは天来の光を無視するとき、聖霊はどのように悲しまれるかを説明しなさい。
3. どのように裕福な人たちと彼らの牧師たちは共にわなにかげられるかもしれませんか。
4. なぜ貪欲が増し加わっていますか。またなぜ今、かつてなかったほどそれを避けなければならないのですか。
5. キリストのうちにある謙遜の美しさと益を描写しなさい。

天に焦点をあてる

暗唱聖句：「あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。」(ヤコブの手紙 5:8)

「あなたはキリストの義を絶えずまとい続けている必要がある。あなたは自分は神の子であり、優しく、親切で忍耐強い精神を持っていることを心に留めておく必要がある。利己主義と貪欲があなたの魂にやどることがないようによく見張っていなさい。」(原稿リ-ス 13 卷 288)

推奨文献： 初代文集 150-153

日曜日

12月15日

1. 再評価のための時!

- a. 古代から高く評価されしばしば切望されてきた品々にまもなく何が起こりますか。またこれはわたしたちに何を思い起こさせますか (イザヤ書 31:6, 7)。

「すべての悪の根は不正に用いられた金銭に対する利己的な愛である。富は主の物であるとみなし、感謝して受け、感謝してこれを与え主にお返しするならば富は祝福であることを示すであろう。

しかしもしそれが高価な邸宅や銀行に蓄えられているのであれば、その計り知れない富になんの価値があるであろう。無限の神の御子がそのために死なれた一人の魂の救いに比べるならばこれらの重さはいかなるものであろう。」(教会への証 6 卷 453)

「言い訳をして罪を犯し続け世に従うことを選ぶ者は、偶像と共に取り残されてしまう。キリストがご自分の栄光と御父の栄光の内に来られる時、天のすべての天使たちがキリストを取り囲み勝利の声をあげながらこのお方を導き、最も魅力的な音楽が耳に聞こえる時、すべての者が関心を持ち、無関心な見物人は誰もいないであろう。その時、推論に魂を没頭させる者はいないであろう。強欲な彼の目を楽しませてきた金の山はもはや魅力的ではなくなる。地上の誇り高き人々が建て、彼らの偶像であった宮殿は、憎しみと嫌悪をもって背を向けられる。」(同上 2 卷 41)

2. 手遅れになる前に…

- a. 聖書は先延ばしにすることによって自分の財産で神を敬う機会を失う人々をどのように描写していますか (ホセア書 4:17; マタイによる福音書 25:11, 12)。
- b. 現代の真理を信じると公言する人々を含めて、利己的に物質的資産にしがみつく人々の最終的な結果を述べなさい (ヤコブの手紙 5:3)。

「[ヤコブ 5:1-3 引用] わたしはこれらの恐るべき言葉が現代の真理を信じていると公言する富める者に特に当てはまることを見た。主は彼らにご自分の御事業を前進させるために彼らの財産を用いるようにと召しておられる。彼らには機会が与えられているが、彼らはみ事業のためには自分たちの目を閉ざし、地上の宝にしがみついている。彼らの世に対する愛は真理に対する愛、同胞に対する愛、または神に対する愛よりも大きいのである。このお方は彼らの物質的な物をお召しになるが、彼らは利己的に、貪欲に自分の持っている物を保持している。彼らは良心の呵責を和らげるために時折ささやかな献金をささげますが、この世への愛着に打ち勝つことができない。彼らは神のために犠牲を払わない。主は永遠の命を尊び、魂の価値を感じ悟ることのでき、自分たちの財産を神の御事業を推進するために惜しみなく捧げる他の人々をお立てになった。働きは終わりに近づいている。そしてすぐに富、大きな農場、家畜、その他の物などを維持してきた人々の財産は必要なくなるであろう。わたしは主がそのような者たちに怒りと憤りをもって向かわれ『金持ちたちよ、行ってしまえ』と繰り返されるのを見た。このお方はあなたを召されたがあなたは聞かなかつた。この世への愛がこのお方の御声をかき消してしまった。今このお方はあなたの何をもお使いにならず、あなたを行かせ『金持ちたちよ、行ってしまえ』とお命じになる。

ああ、主にこのように見捨てられるのは恐ろしいことだということをわたしは見た。もしわたしたちがそれを売って施したなら天に宝を積むことができると主が言われたのに、ここで朽ちる物にしがみついていることは恐ろしいことである。働きが終わりに近づき、真理が大いなる力で宣べ伝えられようとしている時に、これらの金持ちたちは自分たちの財産をもってきてそれを神の僕たちの足元に置き、それを受け入れてくれるように懇願するであろうということをわたしは見た。神の僕たちの答えは『金持ちたちよ、行ってしまえ』である。あなたの財産は必要とされていない。あなたは神のみ事業を推進するためにそれを善のために使うことができたのにあなたはそれを差し控えた。貧しい者たちは苦しんでいた。彼らはあなたの財産によって祝福されてこなかった。神は今あなたの富をお受入れにならないであろう。行ってしまえ、金持ちたちよ。」(教会への証 1巻 174, 175)

3. 黄金律を学ぶ

- a. 裕福な者たちは雇人や、あるいは自分たちが物を買う人たちをどのようにしばしば扱いますか。またわたしたちは何を心に留めておくべきでしょうか（ヤコブの手紙 5:4-6; マタイによる福音書 7:12）。

「神は得られたすべての富のうちにおられるわけではない。サタンはしばしば神よりも財産の獲得に大きくかかわっている。その多くは雇人の賃金を圧迫することによって得ているのである。生来貪欲な金持ちは雇人を骨折らせ得る限りその人を利用することによって富を得、それによってまるで火のように彼の肉体を蝕む宝を増やしているのである。

ある者は厳しく正直で名誉ある道を歩まない者もある。このような者はこれとはまったく異なる道を選んでいて、その時間を贖うために迅速に働く必要がある。ここに多くの安息日遵守者に誤りがある。貧しい兄弟たちでさえつけこまれ、豊かに所有している人々が実際の価値以上に、自分たちが同じものに対して払う以上に取り立てている。その一方でこれらの兄弟たちは資金の不足にろうばいし、失望しているのである。神はこれらすべての事をご存じである。あらゆる利己的な行為、あらゆる貪欲な強奪はその報いをもたらす。

わたしは兄弟の状況を考慮しないことは残酷で不正であることを見た。もし困窮していたり、貧しかったりしても彼が最善を尽くしているのであれば、彼のために手当てが与えられるべきであり、裕福な者から全額でものを購入することができるが、取り立てられるべきではない。彼のために彼らは心からの同情を持つべきである。神はそのような親切な行為を認めて下さるので、それを行う者は報いを失うことはない。しかし、厳密で貪欲な行為のために多くの安息日遵守者に対して恐るべき収支計算書がつけられている。」（教会への証 1巻 175, 176）

- b. 初期の時代、信徒たちはどのように惜しみなく分かち合っていましたか（コリント人への第二の手紙 8:1, 2）。

「わたしは真理を聞き、それを奉じる人々がほとんどいなかった時代に遡って指し示された。彼らはこの世の財産は多くなかった。み事業の必要は、ごくわずかな者たちの間で分配された。それから、ある人々の必要のために、自分たちの家や土地を売り、彼らに保護施設、もしくは家庭として安く提供された。その一方、彼らの資金は惜しみなく豊富に主に貸し与えられ、すなわち真理を発行するために、そして神のみ事業を前進させることにおいてそれ以外の助けのために捧げられた。わたしがこれらの自己犠牲の人々を見たとき、彼らはみ事業の益のために、欠乏に耐えてきたのを見た。わたしは御使が彼らのかたわらに立ち、彼らに上を指し示して、『あなたは天に豊かに持っている！あなたには古くならないものを天に持っている！最後まで耐え忍びなさい。そうすればあなたの報いは大きい。』と言った。」（同上 176）

4. 今日のために重要不可欠な徳

- a. わたしたちの品性を発達させるにおいて、なぜ忍耐は非常に重要なのですか（ヤコブの手紙 5:7）。

『農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている』（ヤコブ 5:7）。そのようにクリスチャンは、神の言葉が自分の生活の中で実るのを忍耐して待たなければならない。わたしたちが聖霊によって与えられる美德を祈り求める場合に、神は、わたしたちをそのような実を結ぶことができる環境に置くことによって、わたしたちの祈りに答えてくださることがたびたびある。しかし、わたしたちは、神の目的が理解できなくて、うろたえてしまう。しかし、この成長と結実の過程を通らなければ、だれ一人として、このような実を結ぶことはできないのである。わたしたちのなすべき分は、神の言葉を受け入れて、それをしっかりと心に保っていて、み言葉の支配に全く自分を委ねることである。その時その目的がわたしたちのうちに成就する。

『もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう』とキリストは言われた（ヨハネ 14:23）。わたしたちは、強く完全な神の意志に心を引きつけられてしまう。それは、わたしたちが、尽きない能力の源と生きたつながりを持つからである。わたしたちの信仰生活は、イエス・キリストに全く捕えられてしまう。もはや、ありきたりの利己的生活は送らなくなり、キリストがわたしたちの内に住んでくださる。イエスの品性がわたしたちの中に再現される。このようにして、わたしたちは、聖霊の実を結び、『三十倍、六十倍、百倍』にもなるのである。』（キリストの実物教訓 39, 40）

- b. この地球での悪が深刻化していることについて失望したり意気消沈をするよう誘惑されるとき、なぜ忍耐強い信頼が非常に助けとなるのですか（ヤコブの手紙 5:8; ルカによる福音書 21:19）。

「世の人びとは、大胆に神の律法を犯すようになった。神が長く忍んでおられるために、人びとは、神の権威をふみにじった。彼らは、互いに、競って、神の嗣業である人びとを圧迫し残酷に扱った。『神はどうして知り得ようか、いと高き者に知識があるろうか』と彼らは言うのである（詩篇 73:11）。けれども、彼らには超えられない一線が画されている。定められた限界に彼らが達するときに近づいてきた。今すでに、彼らは、神の忍耐の限界を超えようとしている。それは、神の恵みとあわれみの限界である。主は、み手を下してご自分の名誉を擁護し、神の民を救い出し、不義が増し加わるのをおさえられる。』（同上 158, 159）

5. わたしたちを強める模範

- a. 教会の中で、わたしたちはあまりにもしばしば何に焦点をあてていますか。そしてその代わりに何を思いおこすべきですか (レビ記 19:18; ヤコブの手紙 5:9, 10)

「アダムの子らのうち、一番はじめのクリスチャンであったアベルは殉教の死を遂げた。エノクは神とともに歩んだが、世は彼を知らなかった。ノアは狂信者、世をさわがせる者と嘲笑された。『なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。』『ほかの者は、更にまさったいのちによりみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった』(ヘブル 11:36,35)。」

「どの時代にも神が選ばれた使者たちは、ののしられ、迫害された。しかしその苦難を通して神の知識が広まったのである。キリストの弟子はみなこの列に加わり、預言者たちと同じ働きを推し進めなければならない。そして敵は真理に逆らっては何一つなし得ず、むしろ真理のためになっていることを覚えるべきである。侮辱のことがば浴びせられても、神は真理が前面に出され、検討と論議の主題になるよう意図しておられる。人々の心をゆり動かさなければならない。あらゆる論争、あらゆる非難、良心の自由を束縛するあらゆる企ては、ともすれば眠りをむさぼりがちな人心を目ざめさせる神の手段である。

このような結果は、神の使者たちの生涯の中に何度もみられた。かの高貴で雄弁なステパノがサンヒドリン議会の扇動によって石で打ち殺された時、福音事業は何らの損失もこうむらなかつた。ステパノの顔に輝いた天の光と彼の臨終の時の祈りに聞かれた神のようなあわれみなどは、そこに立っていた頑迷な一議員の罪を指摘する鋭い矢のようなものであつた。こうして迫害者のパリサイ人サウロは、異邦人や、王たちやイスラエルの子らにキリストの名をもたらす選びの器となつたのである。」(祝福の山 41, 42)

個人的な復習問題

1. わたしは自分の金銭の価値について、何を悟る必要がありますか。
2. ヤコブの手紙 5:1 にあるキリストの要求は何を意味していますか。
3. 資金的な取引に関して、わたしはどの弱さの罪があるかもしれませんか。
4. 最終的に、忍耐はどのように神の民の間で徳として輝くのですか。
5. 歴史を通じて迫害されてきた殉教者たちは、どのように自分たちの焦点を維持してきましたか。

信仰によって耐える

暗唱聖句：「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」（ヤコブの手紙 5:16）

「謙遜で熱心な祈りは魂を死から救い、告白と改革は多くの罪を覆うものである。」
（ビュー・アンド・ヘラルド 1902年12月16日）

推奨文献： ミストリー・オブ・ヒーリング 202-211; 教会への証 3巻 271-293

日曜日

12月22日

1. 希望

a. ヨブは特にどの徳のために認められていましたか（ヤコブの手紙 5:11）。

「主はうむことを知らない愛をもって、わがままな者の告白を聞き、その悔い改めを受けいれようと待っておられる。かわいい幼子が自分の顔を認めてほほえむのを待つ母親のように、主はわたしたちがいくぶんでも感謝に答えるのを待っておられる。主がどんなに熱心に、またやさしくわたしたちのことを心にとめておられるか理解することを主は望んでおられる。わたしたちの試練を主のあわれみに、悲しみをその愛に、傷をそのいやしの力に、弱さをその力に、むなしさをその充満にゆだねるように、主は、わたしたちを招いておられる。イエスのみもとに来た人で失望した者はひとりもない。『主を仰ぎ見て、光を得よ、そうすれば、あなたがたは、恥じて顔を赤くすることはない』（詩篇 34:5）。

隠れたところで主を求め、その必要を主に告げて助けを求める者の願いがむなしくなることはない。」（祝福の山 104）

b. ヤコブは正直さに関してキリストの言葉をどのようにこだまさせていますか（ヤコブの手紙 5:12; マタイによる福音書 5:37）。

「クリスチャンのすることはすべて、日光のように透明でなければならない。」（同上 84）

2. 信仰 対 僭越

- a. もし病気で苦しんでいるなら、わたしたちは命の与え主のもとに来るようどのように、またなぜ励まされているのですか（ヤコブの手紙 5:13-15；詩篇 103:1-3）。

「聖霊が詩篇記者を通じてこれらの言葉を語ったときと少しも変わらず今日も神は病める者に喜んで回復を与えようとしておられる。そしてキリストも地上で伝道されていたときと同じように今もなおあわれみ深い医者である。キリストの中にすべての病をいやす乳香があり、あらゆる病弱から回復する力がある。今日、キリストの弟子たちは昔の弟子たちが祈ったように病人のために祈るべきで、そこに回復がもたらされるのは『信仰による祈りは、病んでいる人を救』うからである（ヤコブ 5:15）。聖霊の力と、ゆるがぬ信仰の確信を通して神の約束を自分のものとするのできるのである。『病人に手をおけば、いやされる』（マルコ 16:18）。この主の約束は今日もなお使徒の時代と同様信頼できるものである。」（ミニストリー・オブ・ヒーリング 203）

- b. 健康を求める時、わたしたちはどのようなバランスに注意しなければなりませんか（詩篇 66:18）。

「わたしたちは神のあわれみを受ける資格はないが、自分を神にささげるとき、神は受け入れてくださる。そして神に従う者のために働き、また、その人々を通じて働かれるのである。

神のみ言葉に従って生活するときに初めてわたしたちはその約束の成就を主張できる。……もし部分的な、心からでない服従であるならば神の約束は果されない。」（同上 204）

「キリストが働かれた方法はみ言葉を宣べ伝え、また奇跡的な癒しの御業によって苦しみから解放なさることであった。しかしわたしたちは今、このように働くことはできないということをわたしは示された。なぜならサタンは奇跡を起こすことによってその力を行使するからである。今日、神の僕たちは奇跡を働くことはできない。なぜなら神であると主張する偽りの癒しの働きが行われるからである。

この理由のために主はご自分の民がみ言葉の教えと結びついた肉体的な癒しの働きを推し進めていく道を示された。療養所が設立され、真の医事伝道の働きを推進する働き人がこれらの施設と連結されるべきである。こうして防備する感化力が、治療のために治療院におとずれる人々のまわりに投げかけられるのである。

これは多くの魂のために福音の医事伝道の働きがなされるようにと主がお定めになったことである。」（医事伝道 14）

3. 二つの異なった種類の勇氣

- a. 悲しいことに見落とされている癒しの重要な側面を挙げなさい (ヤコブの手紙 5:16)。

「罪を告白することが自分の尊厳を傷つけ、同胞に対する影響力を弱めることになる」と考える者たちは何という思い違いをしていることであろう。この誤った考えに執着し、自分の欠点が見えているにも関わらず、多くの人はそれを告白することができず、むしろ自分が他の人に対して犯した過ちをそのままやり過ごして、自分の人生を苦しいものとし、また他の人の人生に暗い影を落としている。罪を告白することはあなたの尊厳を傷つけるものではない。この偽りの尊厳を捨てなさい。岩の上に落ちて砕かれなさい。そうすればキリストはあなたがたに真の天の尊厳を授けて下さるであろう。プライド、自尊心、自己義は約束を主張するために自分の罪を告白することを妨げる。『その罪を隠す者は栄えることがない、言い表してこれを離れる者は、あわれみをうける』(箴言 28:13)。神に対して何も隠さず、あなたの兄弟たちに自分の欠点を告白することを怠ってはならない。『だから、互いに罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい』(ヤコブ 5:16)。多くの罪は告白されないままにされており最後の清算の日に罪人と直面することになる。贖いの犠牲であられる方があなたの代わりに嘆願してくださっている間に、今すぐに自分の罪と向き合い、それを告白し、消し去られるほうがずっと良い。この問題に関する神の御心を学ぶことを怠ってはならない。あなたの魂の健康と他の人々の救いはこの問題においてあなたがどのような道を歩むかにかかっている。」(セクテッド・メッセージ 1巻 326, 327)

- b. 国民の靈的背教を憂慮した時、エリヤはどのような行動を取りましたか、また神はどのように彼を守られましたか (列王記上 17:1-3)。

「エリヤは、こうした背信を、彼の山の中のかくれがから眺めて、悲しみに沈んだ。彼は心を悩まして、かつては神に恵まれた民の悪行を神が阻止されるように祈り求めた。そして、もし必要ならば、彼らに罰を下してでも、彼らに天の神からの離反が何であるかを悟らせようとした。彼は、彼らが悪行の果て、ついに神の不興を招いて、全く滅ぼされるに至る前に、彼らが悔い改めることを願ったのである。……

天からの刑罰の言葉をアハブに伝える任務が、エリヤに負わせられた。……

彼は、宮殿において、入場の許可を求めしななければ、彼が来たことが知らされるのも待たなかった。彼は、当時の預言者たちが着ていた荒布の衣を着て、だれにも気づかれずに護衛兵たちを通りすぎ、あっという間に王の前に立って、彼を驚かせた。」(国と指導者上巻 88, 90)

4. エリヤから学ぶ

- a. 背教した民を目覚めさせるというエリヤの神への祈りがなぜわたしたちの模範として与えられているのですか（ヤコブの手紙 5:17）。

「訴えや忠告や警告が何度となく繰り返されたにもかかわらず、イスラエルを悔い改めさせることができなかった。刑罰によって、神が彼らに語るべき時が来たのである。バアルの礼拝者たちは、露や雨などの天の宝は主がお与えになるものではなくて、自然の法則によるものであり、また、地が肥沃になって、豊かな実りをもたらすのは、太陽の創造的エネルギーによるものであると主張していたので、汚染された地上に、神ののろいがきびしく下ることになったのである。背信したイスラエルの部族は、物質的祝福をバアルの力に依存した愚かさを知らされるのであった。彼らが悔い改めて神に立ち返り、神がすべての祝福の源であることを認めない限り、地には、雨も降らなければ露もおりなくなるのであった。」（国と指導者上巻 88）

- b. イスラエルが神との同盟を新たにした後、エリヤの祈りは再び、どのようにわたしたちのための模範となっていますか（ヤコブの手紙 5:18; 列王記上 18:39-45）。

「エリヤが六回で落胆して諦めたならば、彼の祈りは答えられなかったであろう。しかし彼は答えが来るまで忍耐強くやり通した。わたしたちはわたしたちの嘆願に耳を閉じられることのない神を持っている。そしてもしわたしたちが神の言葉を証明するならば、神はわたしたちがすべての関心を神の関心と織り合せることを望んでおられる。そうする時に神はわたしたちを安心して祝福なさることができる。なぜなら祝福がわたしたちのものとなる時、わたしたちは自分の榮譽としない神にあらゆる賞賛を帰すようになるからである。神はいつもわたしたちの祈りに最初から答えられるとは限らない。なぜならもしそうなったらわたしたちは神がお与えになったあらゆる祝福と恩恵を受ける権利を当然の事と思うからである。自分が何かの悪をもてあそんだり、罪にふけていないかどうかを吟味するためにじっくり考えることをしないでわたしたちは不注意になって、神に信頼することと神の助けの必要性を真に理解しなくなるのである。

エリヤは自分に榮譽を帰すことがないという状態まで、自分を謙遜にした。これが主が祈りを聞かれる状態である。」（SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1034, 1035）

5. キリストのような優しさを差し伸べる

- a. 墮落した世界において欠陥のある人々がわたしたちに失望を与える中、ヤコブはわたしたちへの手紙をどのような最後の訴えで締めくくっているでしょうか（ヤコブの手紙 5:19, 20）。

「あやまちを犯したものを失望におとしいてはならない。パリサイ的なきびしさによって、兄弟を傷つけてはならない。にがにがしい軽べつの心をおこしてはならない。あざけりの調子を声に出してはならない。もしあなたが自分自身のことばを語り、無関心をよそおい、疑いや、不信を示すならば、魂を滅びにおとしいることになる。あわれみ深い長兄イエスの心をもった人間が彼の心にふれなければならない。心から彼に同情してあたたかく手を握り、いっしょに祈りましょうときさやきかけなければならない。神はあなたがた二人に、豊かな経験をお与えになることであろう。祈りはわたしたちを互いに結びつけ、また、わたしたちと神とを結びつける。…祈りは、サタン攻撃をかわすものである。

人が人間の不完全さから目を転じて、イエスを見上げるとき、聖なる変化が品性の中におこる。キリストの霊が心に働いて、そのみかたちに一致させる。そして、イエスを高く掲げるように努めなさい。心の目を、『世の罪を取り除く神の小羊』に注ぎなさい（ヨハネ 1:29）。そしてあなたがこのような働きに従事するとき、『かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである』（ヤコブ 5:20）。・・・

神のゆるしによって、あやまちを犯した者の心は無限の愛なる神の大いなるみ心に近くひきよせられる。神のあわれみが潮のように、罪人の心に流れ込み、又その人から他の人々の心に流れこむのである。」（キリストの実物教訓 225, 226）

個人的な復習問題

1. これまでの人生でわたしに対する神の豊かな憐れみを目にしたのはどのような時でしたか。
2. わたしの健康に関してどのような点で憶測という罪を犯すかもしれませんか。
3. 国民を代表してエリヤの祈りはどのように答えられましたか。
4. なぜエリヤは雨が降るように何度も祈る必要があったのですか。
5. だれに対してもっと思いやりのある態度を取るべきでしょうか、それはなぜですか。

第一安息日献金



10月5日

アメリカ合衆国ペンシルバニア、レディングの礼拝堂のために (4 ページ参照)

11月2日

世界総会の文書支部のために
(25 ページ参照)



12月7日

コロンビア・ユニオン本部のために
(51 ページ参照)